

町村制中改正法律案

民事訴訟法中改正法律案

不動產融資及損失補償法中改正法律案

產業組合中央金庫特別融通及損失補償法

中改正法律案

同日衆議院ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

刑事訴訟法中改正法律案(衆第十八號)

刑事訴訟法中改正法律案(衆第十九號)

舊獨逸膠州租借地還付ニ關スル條約實施

二件ノ損失ノ補償ニ關スル法律案

同日議員ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

政教刷新ニ關スル建議案(候爵西郷從徳君外五名發議)

政教刷新ニ關スル建議案(候爵西郷從徳君外五名發議)

同日議員ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

政教刷新ニ關スル建議案(候爵西郷從徳君外五名發議)

同日議員ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

○副議長(伯爵松平賴壽君) 會議ヲ開キマス、來ル四月初旬御來訪アラセラレマスル

満洲國皇帝陛下ノ歡迎ノ件ニ付キマシテ、鷹司公爵ヨリ發言ヲ求メラレマシタカラ、之ヲ許可イタシマス、鷹司公爵ノ御登壇ヲ望ミマス

秩父宮殿下ガ滿洲國ニ赴カセラレテ、兩國ノ交誼ヲ厚クセラレタノデアリマス、今又皇帝陛下自ラ來リ、我ガ天皇陛下ヲ訪ハセラレ、親シク驩ヲ交へ給フコトニ相成ツタ

ノデゴザイマス、兩國皇室ノ御親睦ハ彌々増シ、兩國國交ノ親善ハ益々厚キヲ加フルコト

ニアラウト存ジマス、冀クハ皇帝陛下ノ懿德ニ依リ、將來兩國ハ相依リ相助ケ、益共存共榮ノ實ヲ挙ゲ、東洋ノ平和ヲ確保シ、

延イテハ世界人類ノ福祉ヲ増進セシムルコトヲ切望スルモノデゴザイマス、皇帝陛下ヲ御迎ヘスルニ當リ、我ガ貴族院ハ最善ノ方法ヲ盡シテ歡迎ノ衷誠ヲ表明イタシタイ

ノデアリマスガ、時恰モ閉會中ニ屬シマスル爲ニ、茲ニ本員ハ貴族院ガ皇帝陛下ヲ歡迎シ奉ルコトニ關スル一切ノ處置ヲ、豫メ

議長ニ一任スルノ動議ヲ提出スル次第デゴザイマス、何卒滿場ノ諸君ニ於カセラレマシテ、御贊成アラムコトヲ希望イタシマス

倉庫業法案
右政府提出本案院ニ於テ修正議決セリ因

テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也昭和十年三月十九日

貴族院議長 濱田 國松
(小字及ハ衆議院ノ修正)

衆議院議長 濱田 國松
倉庫業法案

第一條 倉庫營業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ預證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行スルコトヲ得ズ但シ

勅令ヲ以テ指定シタル倉庫營業者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫、營業規則及保管料率表ヲ具シ主務大臣ニ之ヲ申請スベシ

第三條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者事業計畫、營業規則又ハ保管料率表ヲ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ第一條ノ許可又ハ前條ノ認可ヲ爲スハ第四條ノ規定ニ依リ許可若ハ認可ニ

リ主務大臣ニ届出ヲ爲スベシ

第五條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者正ハ第一條ノ許可ヲ受ケタル者預證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行スルコトヲ得ズ但シマス

第六條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者正ハ第一條ノ許可ヲ受ケタル者預證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行スル場合ニ於テハ寄託者ノ爲ニ受寄物ヲ火災保険ニ付スベシ但シ寄託者ガ反對ノ

意思ヲ表示シタル場合又ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第八條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ業務ニ關スル報告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ノ業務及設備ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得

第九條 主務大臣ハ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ノ業務又ハ設備ノ狀況ニ依リ必

要アリト認ムルトキハ事業計畫、營業規則又ハ保管料率表ノ變更ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條 主務大臣ハ第一條ノ許可ヲ受ケタル者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ第四條ノ規定ニ依リ許可若ハ認可ニ附シタル制限若ハ條件ニ違反シタルトキハ預證券及質入證券若ハ倉荷證券ノ發行ノ停止ヲ命ジ又ハ第一條ノ許可ノ取消ヲ爲スコトヲ得主務大臣第一條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行爲ガ著シク寄託者又ハ預證券、質入證券若ハ倉荷證券ノ所持人ノ利益ヲ害シ又ハ害スルノアリト認ムルトキ亦同ジ

第十一條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者死亡シタル場合は於テ其ノ倉庫營業ヲ相続ニ因リテ承繼シタル者ハ之ヲ第一條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第十二條 本法中主務大臣ノ職權ハ命令ヲ以テ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

第十三條 第一條ノ規定ニ違反シ主務大臣ノ許可ヲ受ケズシテ又ハ第十條ノ規定ニ依ル發行停止ノ命令ニ違反シテ預

證券及質入證券又ハ倉荷證券ヲ發行シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一一該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ違反シ主務大臣ニ届出ヲ爲サズシテノ認可ヲ受ケズシテ事業計畫、營業規則又ハ保管料率表ヲ變更シタルトキ

二 第七條若ハ第八條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ第八條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨げ若ハ忌避シタルトキ

三 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキ

第十五條 倉庫營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ニシテタルトキ

其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ倉庫營業者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業方法等ニ付キマシテ、遺憾ノ點ガ少ク

ナイノデアリマス、其結果倉庫營業竝ニ倉庫證券ノ信用ヲ薄弱ナラシメマシテ、商品ノ賣買、商品ヲ擔保トスル金融ノ圓滑ヲ期シ、倉庫營業ノ機能ヲ完全ニ發揮セシムル上ニ於テ、支障ナキヲ保シ難イ情況デアル

ノデアリマス、仍テ茲ニ倉庫營業ノ監督取締ノ法規ヲ制定イタシマシテ、資力、信用ノ薄弱又ハ設備ノ不完全ナル業者ノ倉庫證券發行ヲ取締ルト共ニ、其事業經營ニ付キ適當ナル監督ヲ行ヒマシテ、以テ倉庫營業ノ健全ナル發達ヲ助成スルノ趣旨ヲ以チマシテ、本案ヲ提出イタシマシタ次第デゴザ

イマス、尙ホ衆議院ニ於キマシテ、本法案ノ一部ニ修正ガアリマシタガ、本法案提案ノ根柢旨ニ抵觸モ致シマセズ、又運用上ニ於

カラ、政府ハ之ニ對シテ同意ヲ致シマシタ次第デアリマス、何卒慎重御審議ノ上、御協賛アラムコトヲ切望スル次第デアリマス

○伯爵有馬賴寧君 簡單ナ質問ガアリマスガ、御許シヲ願ヒタイト思ヒマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 宜シウゴザイマス

(伯爵有馬賴寧君演壇ニ登ル)

○伯爵有馬賴寧君 只今政府ノ御説明ニナシテ、重大ナル利害關係ヲ有スルモノニアリマスガ、殊ニ倉庫證券ヲ發行スル場合ニ

物ノ大量保管ヲ職能トスルモノニアリマシテ、保險業、銀行業ト同ジク社會公共ニ對

シテ、重大ナル利害關係ヲ有スルモノニアリマスガ、然ルニ從來我國ニ於キマシテハ、

リマスガ、殊ニ倉庫證券ヲ發行スル場合ニ付テ質問ヲスルノデハナイノデアリマスガ、衆議院ノ委員會ノ時ニ、之ニ付帶決議ガ付イテ居リマスガ、其付

○伯爵有馬賴寧君 只今ノ御質問ニ御答申上げマスガ、此倉庫營業法案ヲ衆議院ガ

決議スルニ當リマシテ、付帶希望條項ト云フモノガ四ツバカリ付イタノデアリマス、

○政府委員勝正憲君 決議スルニ當リマシテ、付帶希望條項ト云フモノガ四ツバカリ付イタノデアリマス、

○政府委員勝正憲君 只今ノ御質問ニ御答申上げマスガ、此倉庫營業法案ヲ衆議院ガ

決議スルニ當リマシテ、付帶希望條項ト云フモノガ四ツバカリ付イタノデアリマス、

○政府委員勝正憲君 只今ノ御質問ニ御答申上げマスガ、此倉庫營業法案ヲ衆議院ガ

決議スルニ當リマシテ、付帶希望條項ト云フモノガ四ツバカリ付イタノデアリマス、

居ルノデアリマス、勿論此倉庫營業法ガ出來マシテモ、農業倉庫ハ農業倉庫法ト云フ

庫業法ガ成立イタシマシタ爲ニ、農業倉庫ガサウ云フ制限ヲ受ケルト云フコトハナイト思フノデアリマスガ、只今修正條項ニ付テハ、政府ハ御同意ニナシタト申サレマシタガ、無論付帶決議ニ付テハ何トモ申

ニ政府ハ御考ニナルノデアリマスカ、農業倉庫業ト云フモノガ、若シサウ云ッタヤウナ商行爲ヲ全部禁止サレルト云ツタヤウナ風ナコトデアルナラバ、農業倉庫ハアッテ無キガ如キモノニナルノデアリマス、尤モソレガ爲ニハ、農業倉庫業法ノ改正ヲシナケレバ出來ナイコトデアリマスガ、其委員會ニハ商工省ノ方バカリ出テ居ラレマシテ、農林省ノ關係ノ方ハ一度モ出テオ出デニナラヌヤウデアリマス、從テ農林省側ノ意向ト云フモノハ全然發表サレテ居ラナイヤウニ思ヒマス、其點ニ付キマシテ政府當局ノ御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス

(政府委員勝正憲君演壇ニ登ル)

○政府委員勝正憲君 只今ノ御質問ニ御答申上げマスガ、此倉庫營業法案ヲ衆議院ガ

決議スルニ當リマシテ、付帶希望條項ト云フモノガ四ツバカリ付イタノデアリマス、

是ハ政府ニ於キマシテハ大體此希望ノ趣旨

ハ贊成デアリマスルケレドモ、何モ此通り必ズ其儘實行スルト云フ譯ニモ行カナイ點

モ、能ク研究シテ見ナケレバナラヌ所ガアラウト思ヒマス、從テ只今御述ニナリマシ

タ希望條項ノ第三ハ、農業倉庫法又ハ產業組合法ノ規定ノ範圍ヲ逸脱シテ、營業倉庫ヲ

壓迫スルガヤウナ行爲ハ、取締テ貰ヒタイ
ト云フヤウナ趣旨デアルモノト認メマシ
テ、ソレ等ノコトニ付キマシテモ主管省タ
ル農林省トモ協議ノ上ニ、農業倉庫業法、
産業組合法ノ適切ナル運用ニ依リマシテ、
極力妥當ナル處置ヲ講ジタイト考ヘテ居リ
マス次第アリマス

○伯爵有馬賴寧君 簡單デアリマスカラ、
此席カラ御許シヲ願ヒマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 宜シウゴザイ
マス

○伯爵有馬賴寧君 只今ノ御答辯デアリマ
スナラバ、私ハ敢テ御尋ヲスル必要ハナカッ
タノデアリマスガ、速記錄デ拜見シマシタ
付帶決議ノ文句ハ、只今御説明ニナリマシ
タノトハ私ハ遠フヤウニ了解ヲスルノデア
リマス、併シ此事ニ付キマシテハ、他ノ機
會ニ於テ御尋スル折モアラウカト存ジマス
カラ、今回ハ此程度ニ止メテ置キマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御質疑モ
ゴザイマセヌケレバ、特別委員ノ氏名ヲ朗
讀イタサセマス

〔小林書記官朗讀〕

倉庫業法案特別委員
侯爵井上 三郎君 子爵植村 家治君
男爵橋元 正輝君 男爵杉溪 由言君
内藤 久寛君 中村圓一郎君
門野幾之進君 武井覺太郎君
田中徳兵衛君

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第二、裁
判所構成法中改正法律案、日程第三、裁判
所ノ廢止及設立ニ關スル法律案、日程第
四、大正二年法律第九號中改正法律案、日
程第五、司法代書人法中改正法律案、日程
及前條ニ定メタル地方裁判所長ノ權限

第六、辯護士法中改正法律案、日程第七、
公證人法中改正法律案、日程第八、執達吏
規則中改正法律案、日程第九、執達吏手數
料規則中改正法律案、政府提出、衆議院送
付、第一讀會、是等ノ八案ハ之ヲ一括シテ
議題ニスルコトニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト
認メマス、司法大臣

裁判所構成法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十年三月十九日

貴族院議長 濱田 國松
衆議院議長 濱田 國松
貴族院議長公爵近衛文麿殿

裁判所構成法中改正法律案
裁判所構成法中左ノ通改正ス
第二條ニ左ノ一項ヲ加フ
地方裁判所ハ必要ニ應シ之ヲ民事ノミ
ヲ管轄スルモノ(民事地方裁判所又ハ
刑事ノミヲ管轄スルモノ(刑事地方裁
判所)ト爲スコトヲ得

第六條第一項中「各裁判所」ヲ「民事地方
裁判所ヲ除ク外各裁判所」ニ改メ同項ノ
次ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ニ定メタル檢事ノ權限ハ民事地方
裁判所ニ關シテハ其ノ管轄區域ヲ同シ
クスル刑事地方裁判所ノ檢事局ノ檢事
事務

第八條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第
二項中「檢事局」ヲ「區裁判所檢事局」ニ、
同條第三項中「監督書記及書記長」ヲ「書
記長及監督書記」ニ改ム

大審院大審院檢事局及控訴院檢事局ノ書記課
=書記長ヲ置ク控訴院檢事局地方裁判
所及地方裁判所檢事局ノ書記課ニ監督
書記ヲ置ク

第九十五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル
場合ニ於テハ前項ノ委任ハ民事地方裁
判所長ニ對シ之ヲ爲ス

第一百一條 廷丁ハ大審院控訴院及地方裁
判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テ
民事地方裁判所ニ於テ、刑事案件ニ付テ

ハ民事地方裁判所及刑事地方裁判所ア
ル場合ニ於テハ控訴院長又ハ其ノ指定
シタル民事地方裁判所長若ハ刑事地方
裁判所長ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ
加フ
民事地方裁判所及刑事地方裁判所ニ一
若ハニ以上ノ部ヲ設ク
第二十五條ノ三 民事地方裁判所及刑事
地方裁判所アル場合ニ於テ裁判事務上
必要アリト認ムルトキハ控訴院長ハ民
事地方裁判所又ハ刑事地方裁判所ノ判
事ニ其ノ管轄區域ヲ同シクスル刑事地
方裁判所又ハ民事地方裁判所ノ判事ノ
代理ヲ命スルコトヲ得

第七十一条第二中「關東廳法院判官又ハ
關東廳法院檢察官」ヲ「關東法院判官又ハ
關東法院檢察官」ニ改ム

第七十二條第二號中「郡」ヲ削ル

第八十六條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第
二項中「檢事局」ヲ「區裁判所檢事局」ニ、
同條第三項中「監督書記及書記長」ヲ「書
記長及監督書記」ニ改ム

昭和十年三月十九日

貴族院議長 濱田 國松
衆議院議長 濱田 國松
貴族院議長公爵近衛文麿殿

裁判所ノ廢止及設立ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
前項ニ定メタル權限ハ之ヲ廢止ス
東京地方裁判所ハ之ヲ廢止ス
東京市ニ民事地方裁判所及刑事地方裁判
所ヲ設立シ民事地方裁判所ヲ東京民事地
方裁判所、刑事地方裁判所ヲ東京刑事地
方裁判所ト稱ス

附 則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
東京地方裁判所ニ於テ爲シタル事件ノ受
理其ノ他ノ手續ハ民事事件ニ付テハ東京
民事地方裁判所ニ於テ、刑事案件ニ付テ

ニハ事務ノ相違、職員ノ分野ニ從ヒマシテ、之ヲ民事刑事各個ノ地方裁判所ニ獨立分離セシムルコトガ最モ適當デアリ、又必要缺クベカラザルコトト考ヘクノデアリマス、茲ニ於テ裁判所構成法中改正法律案ト相俟チマシテ、裁判所廢止及設立ニ關スル法律案ヲ以チマンテ、東京地方裁判所ヲ廢止イタシ、改メテ東京民事地方裁判所及東京刑事地方裁判所ヲ設立イタシマシテ、同時ニ大正二年法律第九號中改正法律案ニ依リ、東京民事地方裁判所ト東京刑事地方裁判所ノ管轄區域ヲ明ニセムトスル次第デアリマス、尙ホ裁判所構成法中改正法律案ニ付テ右申上ゲマシタ主眼ノ點ノ外ニ、裁判所書記其他ニ關スル規定ノ若干改正モアルノデアリマスルガ、詳細ハ適當ノ機會ニ御説明申上ゲタイト存ジマス、次ニ司法代書人法中改正法律案外四件ハ、右申述ベマシタ通り地方裁判所ヲ民事地方裁判所ト刑事地方裁判所ニ分離スルコトヲ得ルノ途ヲ開キマシタ結果、ソレハ其規定ヲ改正整備スルノ必要ヲ生ジタ譯デアリマス、即チ地方裁判所ガ民事及刑事ノ各獨立ノ地方裁判所ニ分離セラレマシタ場合ニ於ケル辯護士、公證人及司法代書人ノ監督上ノ所屬ヲ明ニシ、又執達吏ニ付テモ之ニ類スル事項ヲ改メル爲ニ本案ヲ提案シタ次第デアリマシテ、要スルニ裁判所構成法中改正法律案ニ關聯スル整備的趣旨ノ改正案デゴザイマス、何卒慎重御審議ノ上、東京地方裁判所ノ民刑分離獨立ノ必要ヲ痛感イタシマスル點ヲ御諒承下サイマシテ、速ニ御協賛アラムコトヲ希望スル次第デアリマス、尙ホ最後ニ申添ヘテ置キマスルガ、以上八案ノ中司法代書人法中改正法律案ニ對シマシテハ、衆議院ニ於キマ

シテ修正ガアリマシタ、修正ハ司法代書人ノ名稱ヲ司法書士ト改ムル點デアリマシテ、從テ右ノ修正ノ結果本案ノ名稱ハ司法書士トナツテ居リマス、此點ヲ一言イタシテ置キマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御質疑ガゴザイマセヌケレバ、八案ハ之ヲ刑法中改正法律案外二件ノ特別委員ニ付託イタシマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 别ニ御質疑ガゴザイマセヌケレバ、八案ハ之ヲ刑法中改正法律案外二件ノ特別委員ニ付託イタシマス

第四百九十九號第四項ヲ削リ第五項ヲ第四項トシ第六項ヲ第五項トス

第二百九十九號第四項ヲ左ノ如ク改ム

第四百十二號ヲ左ノ如ク改ム

二二〇 人造麝香
一 ムスクキシロール 每百斤 一二五・〇〇
二 其ノ他 從 價 三割五分

四一二 貴石
一 機械用又ハ工業用ニ供スル爲形ツクリ タルモノ
二 其ノ他 從 價 五
第三年法律第二十四號中改正法律案、日程第十一、大正第十二、昭和七年法律第四號中改正法律案、日程第十三、關稅法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ四案ハ之ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

第四百六十三號ノニ中「マグネシウム」ヲ「マグネシウム及マグネシウム合金」ニ改ム

第六百二十號ヲ左ノ如ク改ム

第六百三十號ヲ左ノ如ク改ム

六二〇 白金、ヴァナヂウム又ハ其ノ化合物ヲ含ム觸媒

六三一 ヴァルカナイズドファイバー(竿、板及管ノ類)

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年法律第二十四號中左ノ通改正案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十年三月十九日

貴族院議長公爵近衛文麿殿 漢田 國松

關稅定率法中改正法律案

大正十三年法律第二十四號中左ノ通改正案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十年三月十九日

貴族院議長公爵近衛文麿殿 漢田 國松

二二一 人造麝香
一 ムスクキシロール 每百斤 一二五・〇〇
二 其ノ他 従 價 三割五分

四一二 貴石
一 機械用又ハ工業用ニ供スル爲形ツクリ タルモノ
二 其ノ他 從 價 五
第三年法律第二十四號中改正法律案、日程第十一、大正第十二、昭和七年法律第四號中改正法律案、日程第十三、關稅法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ四案ハ之ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

第四百六十三號ノニ中「マグネシウム」ヲ「マグネシウム及マグネシウム合金」ニ改ム

第六百二十號ヲ左ノ如ク改ム

第六百三十號ヲ左ノ如ク改ム

六二〇 白金、ヴァナヂウム又ハ其ノ化合物ヲ含ム觸媒

六三一 ヴァルカナイズドファイバー(竿、板及管ノ類)

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年法律第二十四號中左ノ通改正案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十年三月十九日

貴族院議長公爵近衛文麿殿 漢田 國松

關稅定率法中左ノ通改正法律案

大正十三年法律第二十四號中左ノ通改正案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十年三月十九日

貴族院議長公爵近衛文麿殿 漢田 國松

別表輸入稅表番號第六十六號ノ項ヲ左ノ如ク改ム

六六 別號ニ掲ケサル酒類(燒酎類ヲ除ク)

同第六百十二號ノ項ヲ削ル

同第四百十二號ノ項ヲ削ル

甲ノ二 鐵刀木、紅木、紫檀及黑檀(縞黑檀ヲ除ク)

別表輸入稅表中左ノ如ク改ム

第二百二十號ヲ左ノ如ク改ム

案 大正十三年法律第二十四號中改正法律案

イタシマシタ同年度歲入歲出總豫算追加第一號ニ計上セル經費ノ財源ニ付キマシテ

モ、又今日ノ場合公債ニ依ル必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提出シタ次第アリマス、尙ホ本法律案ハ前述ノ如ク總豫算ニ伴

フ歲入補填公債法案ガ目下審議中ナルニ鑑

ミ、別ノ法律案ト致シタ次第アリマス、何卒御審議ノ上、速ニ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○副議長(伯爵松平頼壽君) 御質疑ゴザイマセヌケレバ、本案ハ之ヲ酒造組合法中改

正法律案外四件ノ特別委員ニ付託イタシマス

○副議長(伯爵松平頼壽君) 日程第十五、

府縣制中改正法律案、日程第十六、北海道會法中改正法律案、日程第十七、市制中改

正法律案、日程第十八、町村制中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ四案ハ之ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス、後藤内務大臣

府縣制中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因

テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十年三月十九日

貴族院議長公爵近衛文麿殿

(小字及一ハ衆議院ノ修正)

府縣制中改正法律案

府縣制中左ノ通改正ス

第四條ニ左ノ二項ヲ加フ

前項ノ區域ノ人口著シク少キトキハ府縣條例ヲ以テ其ノ區域ト隣接ノ區域ト

ヲ合セテ一選舉區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選舉區ヲ設クル場合ニ於テ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ

定ム

第六條第二項中「戰時若ハ事變ニ際シ」ノ下ニ「又ハ兵役法第五十五條第二項ノ規定(志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニ付テハ之ニ該當スル勅令ノ規定ヲ含ム)ニ依リ」ヲ加フ

第三十二條第一項但書中「第二項」ヲ「第二項又ハ第三項」ニ、同條第三項中「前項ニ付テハ之ニ該當スル勅令ノ規定ヲ含ム」ニ左ノ一項ヲ

同條第五項ノ次ニ依リ」ヲ加フ

租稅歸納處分中ノ者ハ被選舉權ヲ有セズ

第八條第一項但書中「第三十一條第二項、第三項若ハ第六項ノ規定ニ依ル期限前ニ於テ」ヲ「選舉ノ期日ヨリ一年以内ニ」ニ、同條第三項中「其ノ期限經過後ニ於テ」ヲ「選舉ノ期日ヨリ一年經過後ニ於テ」、「第三十二條第三項」ヲ「第三十二條第四項」ニ、同條第四項中「第三十二條第四項及第五項」ヲ「第三十二條第五項及第六項」ニ改ム

前項第一號乃至第四號ノ事由ヲ生ジタル場合ニ於テ第二十九條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムベシ

第一項第五號又ハ第六號ノ事由ヲ生ジタルトキハ其ノ選舉ノ期日ヨリ一年以内ナル場合ニ於テ第二十九條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキ又ハ其ノ選舉ノ期日ヨリ一年經過後ナル場合ニ於テ第二十九條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ

前項ノ規定ヲ準用ス

第十五條第四項中「特別ノ事情」ヲ「必要ニ改ム

第十六條第一項中「選舉ノ期日ノ前日マテ」ヲ「選舉ノ期日前一日」ニ改ム

第十九條ノ二 選舉人ニシテ勅令ノ定ムル事由ニ因リ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ到リ投票ヲ爲シ能ハザルベキコトヲ證スル者ノ投票ニ關シテハ

第十八條第三項及第五項、第十八條ノ二第一項但書並ニ前條ノ規定ニ拘ラズ

前項ノ選舉ニ於テ當選者ヲ定ムルニ當

勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十五條第三項中「投票區每ヲ「市町村其ノ他府縣知事ノ定ムル區域每」ニ改ム

第三十一條第五項中「第六條第六項」ヲ「第六條第七項」ニ改ム

第三十二條第一項但書中「第二項」ヲ「第二項又ハ第三項」ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

第三十六條第二項中「第三十二條第三項」ヲ「第三十二條第四項」ニ、同條第四項中「第三十二條第四項及第五項」ヲ「第三十二條第五項及第六項」ニ改ム

第三十九條中「及第一百四十二條」ヲ「第一百四十二條及第一百四十七條」ニ、同條但書中「選舉事務所ノ數、選舉委員及選舉事務員ノ數竝」ヲ「選舉委員ノ數、選舉運動ノ爲使用スル勞務者ノ數及」ニ改ム

第五十條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ場合ニ依リ府縣知事ハ臨時會ニ付七日以内ニ於テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

同條第三項中「前項ノ規定ニ拘ラズ三日内」ヲ「通ジテ三日以内ニ於テ」ニ改ム

第五十一條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前條第二項但書ノ規定ニ依リ會期ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ告示ト同時ニ其ノ會期ヲ告示スペシ

第五十五條第一項中「第二十九條」ヲ「第二十九條第一項」ニ、同條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ

三十六條ノ規定ノ準用ニ依リ當選者ヲ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ選舉ニ於テ當選者ヲ定ムルニ當

選者ヲ被告トシテ訴訟ヲ提起スルコトヲ要ス

衆議院議員選舉法第八十五條、第八十七條、第一百四十一條及第一百四十一條ノ三ノ規定ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ、同法第一百四十一條ノ二及

第一百四十一條ノ三ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル訴訟ニ之ヲ準用ス

前條第八項ノ規定ハ第一項乃至第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條第二項中「第三十二條第三項」ヲ「第三十二條第四項」ニ、同條第四項中「第三十二條第四項及第五項」ヲ「第三十二條第五項及第六項」ニ改ム

第三十九條中「及第一百四十二條」ヲ「第一百四十二條及第一百四十七條」ニ、同條但書中「選舉事務所ノ數、選舉委員及選舉事務員ノ數竝」ヲ「選舉委員ノ數、選舉運動ノ爲使用スル勞務者ノ數及」ニ改ム

第五十條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ場合ニ依リ府縣知事ハ臨時會ニ付七日以内ニ於テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

同條第三項中「前項ノ規定ニ拘ラズ三日内」ヲ「通ジテ三日以内ニ於テ」ニ改ム

第五十一條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前條第二項但書ノ規定ニ依リ會期ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ告示ト同時ニ其ノ會期ヲ告示スペシ

第五十五條第一項中「第二十九條」ヲ「第二十九條第一項」ニ、同條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ

三十六條ノ規定ノ準用ニ依リ當選者ヲ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ選舉ニ於テ當選者ヲ定ムルニ當

リ得票ノ數同ジキトキハ議長抽籤シテ
之ヲ定ム

第六十八條中第三號ヲ削リ同條第一號ヲ

第三號トシ同條第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ
加フ

二 府縣會閉會中府縣會ノ權限ニ屬ス
ル事件ニシテ輕易ナルモノヲ府縣會

ニ代ハリテ議決スルコト

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項第二號ノ規定ニ依リ府縣參事會ニ
於テ議決スペキ事件ハ府縣會ノ議決ヲ

經テ府縣知事之ヲ定ム

第七十條中「第五十一條第三項」ヲ「第五

十一條第四項」ニ改ム

本法中「第五十一條第三項」ヲ「第五

十一條第四項」ニ改ム

本法中議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選

舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ

期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ依リ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ昭和

十年市制中改正法律中公民權及選舉人

正法律中公民權及選舉人名簿ニ關スル規

定ハ之ヲ施行セザル市町村ニ於テハ府縣

制中市町村公民權及選舉人名簿ニ關スル

規定ノ適用ニ付之ヲ施行シタルモノト看

做ス

昭和十年市制中改正法律中公民權及選舉

人名簿ニ關スル規定ハ之ヲ施行シタル市

北海道會法中左ノ通改正ス

第三條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

八 租稅滯納處分中ノ者

北海道會法中改正法律案

第四條中「戰時若ハ事變ニ際シ」ノ下ニ又

ハ兵役法第五十五條第二項ノ規定（志願

ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニ付テハ

之ニ該當スル勅令ノ規定ヲ含ム）ニ依リ

ノ規定ヲ設クトヲ看做ス

昭和十年市制中改正法律中公民權及選舉

人名簿ニ關スル規定ハ之ヲ施行シタル市

北海道會法中左ノ通改正ス

第三條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

九 衆議院議長 濱田 國松

貴族院議長公爵近衛文麿殿

（小字及一ハ衆議院ノ修正）

昭和十年三月十九日

前三項ノ場合ニ於テ議員ノ選舉ニ必要ナ
ル選舉人名簿ニ關シテハ命令ヲ以テ特別
ノ規定ヲ設クルコトヲ得
昭和九年法律第四十九號ハ本法ノ適用ニ
付テハ本法ノ施行ト同時ニ施行セラレタ
ルモノト看做ス

ニ於テ議決スペキ事件ハ北海道會ノ議
決ヲ經テ北海道廳長官之ヲ定ム

附 則

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因
付議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

本法中議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選

舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ

期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

和十年市制中改正法律中公民權及選舉人

名簿ニ關スル規定ハ之ヲ施行セザル市ニ

於テハ北海道會法中選舉人名簿ニ關スル

規定ノ適用ニ付之ヲ施行シタルモノト看

做ス

昭和十年市制中改正法律中公民權及選舉

人名簿ニ關スル規定ハ之ヲ施行シタル市

ニ於テハ北海道會法中選舉人名簿ニ關ス

ル規定ノ適用ニ付次ノ總選舉ニ至ル迄ノ

間未ダ之ヲ施行セザルモノト看做ス

前二項ノ場合ニ於テ議員ノ選舉ニ必要ナ

ル選舉人名簿ニ關シテハ命令ヲ以テ特別

ノ規定ヲ設クルコトヲ得

本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於

テ必要ナル町村長ノ調製スル選舉人名簿

ニ關シ第六條ニ規定スル期日又ハ期間ニ

トヲ得

第十一條中「戰時若ハ事變ニ際シ」ノ下ニ

ハ兵役法第五十五條第二項ノ規定（志願

ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニ付テ

之ニ該當スル勅令ノ規定ヲ含ム）ニ依

リヲ加フ

第五條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

租稅滯納處分中ノ者ハ被選舉權ヲ有ゼズ

第六條第一項中「第十八條第一項」ヲ「第

十八條第二項及第三項」ニ改ム

第十條中第三號ヲ削リ同條第二號ヲ第三

號トシ同條第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二 北海道會閉會中北海道會ノ權限ニ

屬スル事件ニシテ輕易ナルモノヲ北

海道會ニ代ハリテ議決スルコト

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項第二號ノ規定ニ依リ北海道參事會

市制中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因
付議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十年三月十九日

貴族院議長公爵近衛文麿殿

（小字及一ハ衆議院ノ修正）

市制中改正法律案

第十條ニ左ノ一項ヲ加フ

市公民租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ

グコトヲ得ス

停止ス

市公民租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ

グコトヲ得ス

第十一條中「戰時若ハ事變ニ際シ」ノ下ニ

ハ兵役法第五十五條第二項ノ規定（志願

ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニ付テ

ハ之ニ該當スル勅令ノ規定ヲ含ム）ニ依

リヲ加フ

第十七條中「特別ノ事情」ヲ「必要」ニ改ム

第十一條第一項中「闕員ヲ生ジタル場合

ニ於テ」ヲ「闕員ヲ生ジタルトキハ其ノ闕

員ト爲リタル議員ガ選舉ノ期日ヨリ一年

以内ニ闕員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ

第三十條第一項但書ノ得票者ニシテ當選

者ト爲ラザリシ者アルトキ又ハ選舉ノ期

日ヨリ一年經過後ニ於テ闕員ト爲リタル

者ナル場合ニ於テ」ニ、「第三十三條第三

項」ニ、同條第三項中「第三十三條第五

項及第六項」ヲ「第三十三條第七項」ニ改

ム

第二十一條第二項中「前項」ヲ「前二項」ニ

改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

選舉人ノ年齡ハ選舉人名簿確定ノ期日

ニ依リ之ヲ算定ス

前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得
檢事ハ衆議院議員選舉法第百十二條乃至第百十三條ノ規定ノ準用ニ依ル罪ニ該ル事件ノ被告人ガ選舉事務長又ハ選舉事務長ニ非ズシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルニ因リ同法第百

告シ仍半數ニ満タサルトキ」ノ下ニ「若ハ
半數ニ満ツルモ其ノ後半數ニ満タザルニ
至リタルトキ」ヲ加フ

期間ニ依リ難キトキハ府縣知事ニ於て別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定迄其ノ效力ヲ有ス

昭和九年法律第四十九號ハ本法ノ適用ニ付テハ本法ノ施行ト同時ニ施行セラレタルモノト看做ス

昭和十年府縣制中改正法律案ハ從前ノ第三十九條ノ二ノ規定ノ適用ニ付テハ次ノ總選舉ニ至ル迄ノ間未ダ施行セラレザルモノト看做ス

本法申市會議員ニ關スル規定ハ從前ノ第百四十六條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ區會議員ノ次ノ總選舉ニ至ル迄ノ間未ダ施行セラレザルモノト看做ス

昭和十年町村制中改正法律中町村會議員ニ關スル規定ハ第百四十六條第二項ノ改正規定ノ適用ニ付テハ本法ノ施行ト同時ニ施行セラレタルモノト看做ス

町村制中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因
テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十年三月十九日

衆議院議長 濱田 國松
貴族院議長公爵近衛文麿殿

町村制中改正法律案
町村制中左ノ通改正ス
第八條ニ左ノ一項ヲ加フ

町村公民租稅滯納處分中ハ其ノ公民權職
ニ就クコトヲ得ズ
ヲ停止ス

第九條中「戰時若ハ事變ニ際シ」ノ下ニ

官報號外

昭和十年三月二十一日

貴族院

議事速記錄第十九號

縣制中改正法律

第一讀會

「又ハ兵役法第五十五條第二項ノ規定(志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニ付テハ之ニ該當スル勅令ノ規定ヲ含ム)ニ依リ」ヲ加フ
第十四條中「特別ノ事情」ヲ「必要ニ改ム
第十七條第一項中「闕員ヲ生ジタル場合ニ於テ」ヲ「闕員ヲ生ジタルトキハ其ノ闕員ト爲リタル議員ガ選舉ノ期日ヨリ一年以内ニ闕員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第二十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキ又ハ選舉ノ期日ヨリ一年經過後ニ於テ闕員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第三十條第三項及第四項ヲ「第三十條第四項及第五項」ニ、同條第三項中「第三十條第五項及第六項」ヲ「第三十條第七項」ニ改ム
第十八條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
選舉人ノ年齢ハ選舉人名簿確定ノ期日ニ依リ之ヲ算定ス
第二十二條ノ四 選舉人ニシテ勅令ノ定ム
事由ニ因リ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ投票ヲ爲シ能ハザルベキコトヲ證スル者ノ投票ニ關シテハ第二十二條第三項及第五項、第十二條ノ二第一項但書竝ニ前條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得
第三十條第一項但書中「第二項」ヲ「第二項又ハ第三項」ニ、同條第三項中「前項」ヲ「前二項」ニ、同條第四項中「第二項」ヲ第二項及第三項」ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム
前項第一號乃至第三號ノ事由ヲ生ジタル場合ニ於テ第二十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムベシ
第一項第四號ノ事由ヲ生ジタルトキハ其ノ選舉ノ期日ヨリ一年以内ナル場合

ニ於テ第二十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ヲ爲ラザリシ者アルトキ又ハ其ノ選舉ノ期日ヨリ一年經過後ナル場合ニ於テ第二十七條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第三十四條第二項中「第三十條第三項及第四項」ヲ「第三十條第四項及第五項」ニ、同條第四項中「第三十條第五項及第六項」ヲ「第三十條第六項及第七項」ニ改ム

第三十六條ノ二中及第一百四十二條ヲ「第一百條ノ二」、第一百四十二條及第一百四十七條ニ改ム

第四十八條但書中「議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ満タサルトキ」ノ下ニ「若ハ半數ニ満ツルモ其ノ後半數ニ満タザルニ至リタルトキ」ヲ加フ

第五十一條第一項中「第二十七條」ヲ「第二十七條第一項」ニ、同條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ選舉ニ於テ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同ジキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

附 則

本法中公民權及議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケザル町村ニ付テハ本法ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第十八條乃テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得テ第十八條ノ四ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ府縣知事ニ於テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ノ選舉人名簿確定迄其ノ效力ヲ有ス

附則

○國務大臣後藤文夫君演壇ニ登ル
（國務大臣後藤文夫君演壇ニ登ル）
會法、市制及町村制中ノ改正法律案ノ提案
ノ要旨ヲ、一括シテ御説明申上ゲタイト存
ジマス、第六十五議會ニ於テ御協賛ヲ經マ
シタ衆議院議員選舉法中改正法律案ハ、客
年六月二十三日法律第四十九號ヲ以チマシ
テ公布ニ相成リマシタ、之ニ伴フ附屬諸法
令ノ改正モ、既ニ其必要ナ手續ヲ了シマシ
タスデアリマス、之ニ伴ヒマシテ一面ニハ
此衆議院議員選舉法改正ノ趣旨ニ照應ヲ
シ、一面ニハ地方議會ノ議員選舉ニ於ケル
過去ノ實蹟ニ徵シマシテ、地方議會ノ議員
選舉ニ關スル規定ノ改正ヲ行ヒマスルト共
ニ、併セテ他ノ若干ノ事項ニ付テ必要ナリ
ト考ヘラレル改正ヲ加フルコト致シマシ
タ、茲ニ地方制度ニ關スル諸法律ノ改正ヲ
提案イタシタ次第デゴザイマス、改正案ハ
市制、町村制、府縣制及北海道會法ノ四法
律ニ關スルモノニアリマシテ、其内容ハ相
當多數ノ項目ニ亘ツテ居リマスルガ、主トシ
テ議員選舉ニ關スル事項デアリマス、其議
員選舉ニ關スル事項ハ大體二ツニ分ソコト
ガ出來マス、第一ハ直接ニ昨年ノ衆議院議
員選舉法ノ改正ニ伴フ事項、第二ハ直接ニ
昨年ノ衆議院議員選舉法ノ改正ニ伴フモノ
スルト、改正案ハ衆議院議員選舉法改正ノ
趣旨ニ從ヒマシテ、一、成ルベク容易ニ投
票ノ場所ヲ創設シ得ルノ趣旨ヲ法文ニ加ヘ
マシタ、二、選舉人ノ年齢ハ選舉人名簿確
定ノ期日ニ依リ之ヲ算定スルコト致シマ
シテ、此際改正ヲ加フルヲ適當ト認メタ事項
デアリマス、先づ第一ノ事項カラ申上ゲマ
スルト、改正案ハ衆議院議員選舉法改正ノ
シタ、三、議員又ハ當選者ニ欠闕ヲ生ジマ
シタ場合ニ於テハ、選舉ノ期日カラ一年以

内ハ一般次點者ヲ繰上ゲテ之ヲ補充スル
トト致シマシタ、四、所謂連坐ノ訴訟ノ手
續ヲ、改正衆議院議員選舉法ト同様ニ改メ
マシタ、是等ノ改正ニ伴フ衆議院議員選舉
法ノ罰則其他ノ規定ヲ準用スル諸規定ヲ整
備イタシマシテ譯デアリマス、次ニ第二
ノ、直接ニ昨年ノ衆議院議員選舉法ノ改正
ト關係ナイ事項ニ付テ申上ゲマスレバ、
改正案ニ於テハ、市ノ全部ニ付キマシテ議
員候補者届出ノ制度ヲ採用イタシマシテ、
之ニ伴ヒマシテ立會人届出、所謂連坐ノ訴
訟等ニ關スル規定ヲ設ケマシタ、且ツ之ニ
衆議院議員選舉又ハ道府縣會議員及
ケルト同様ノ選舉運動及其費用ニ關スル取
締規定ヲ適用スルコトト致シマシタ、是等
訟等ニ關スル規定ヲ設ケマシタ、且ツ之ニ
ハ既ニ衆議院議員選舉竝ニ道府縣會議員及
大中都市ノ市會議員選舉ニ關シテ、今日迄
施行セラレテ參ツタノデアリマス、二、各種地
方議會ノ議員選舉ニ關シ、所謂不在者投票
效果ヲ擧ゲテ居ルト考ヘラレマスルノデ、
此際一步ヲ進メマシテ全部ノ市ニ付テ之ヲ
施行セムトスルノデアリマス、二、各種地
方議會ノ議員選舉ニ關シ、此制度ヲ採用
イタシマシテ以來、既ニ數次ノ選舉ヲ重ネ
マシテ、今ヤ官民共ニ此制度ニ習熟シテ參ツ
ノ制度ヲ採用スルコトト致シタノデアリマ
ス、十四年衆議院議員選舉ニ關シ此制度ヲ採用
トクモノト考ヘラレマスルノデ、此際之ヲ地
方議會ノ議員選舉ニモ及ボシ、成ルベク多
數ノ選舉人ヲシテ現實ニ選舉ニ參加スルノ
機會ヲ得セシムルコトド致シタノデアリマ
ス、三、尙ホ比較的稀ニ生ズル場合デハア
リマスルガ、府縣會議員選舉ニ關シ人口ノ
著シク少イ郡ニシテ一選舉區トナルモノガ
テ隣接ノ郡市ト併セテ一選舉區ト爲シ得ル
途ヲ開キマシテ、各選舉區ニ對スル議員ノ配
正條項ニアリマス、是等ノ事項ノ外ニ改正案

ニ於キマシテハ、地方自治ノ實績ニ微シマシテ、從來ノ制度ニ對シ若干ノ整備、改善ヲ加フルコト致シマシタ、其一ハ、租稅滯納處分中ノ者ニ對シテ、其市町村公民權ヲ停止スルコト致シタノデアリマス、此際公共的精神ノ向上ノ上カラ見マシテ、現ニ租稅滯納處分ヲ受ケテ、其處分中ニアル者ノ公民權行使ハ妥當デナイト考ヘラレマスルノデ、之ヲ停止スルコト致シタノデアリマス、其二ハ、市會又ハ道府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ輕易ノモノハ、豫メ市會又ハ道府縣會ノ議決ヲ經テ其範圍ヲ定メテ、市會又ハ道府縣會ノ閉會中、市參事會又ハ道府縣會參事會ニ於テ之ヲ議決シ得ルコト致シタノデアリマス、是ハ全ク事務ノ便宜ト簡捷トヲ圖ルノ趣旨デアリマス、其三ハ、市町村會、府縣會等地方議會ノ一部ニ於テ行ハル選舉ニ於キマシテ、同數ノ得票者ガ一人以上アリマス時ハ、是ハ從來ノ制度デハ先づ年齢多キ者ヲ採タノデアリマスルガ、改正案ニ於テハ斯ノ如キ場合ニ於テ、直ニ抽籤ノ方法ヲ用キマシテ當選者ヲ決定スルコト致シマシタ、地方議會ノ内部ニ於ケル選舉ニアリマシテハ、選舉ノ結果ガ大體ニ於テ正確ニ豫見セラレマスル爲ニ、屢々起リマシタ弊害ノ實情ニ鑑是ハ申ス迄モナク臨時府縣會ニ必シモ七日間ト云フ會期ヲ必要トシナイ場合ガアルカラデアリマス、以上ハ政府提案ニ係ル改正案ノ要旨デアリマス、之ニ對シマシテ衆議院ニ於テ一つノ修正ガ助ヘラレテ居リマス、其修正ハ、租稅滯納處分中ノ者ノ公民權停止ノ條項ニ關スルモノデアリマス、即チ政府原案ニ於キマシテハ租稅滯納處分中ノ者ニ對シテハ市町村公民權ヲ停止シ、從テ是等ノ者ハ市町村會議員ノ選舉權及市町村ノ

名譽職ヲ擔任スルノ資格ヲ有セズ、又道府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セザルコトト定メテ居ルノデアリマスルガ、修正案ニ於キマシテハ此拘束ヲ或程度ニ緩和ヲ致シマシテ、租稅滯納處分中ノ者ト雖モ市町村會議員及道府縣會議員ノ選舉權ハ之ヲ認メルコト致シ、唯市町村ニ於ケル名譽職擔任ノ資格及道府縣會議員ノ被選舉權ノミヲ上適當ナル御協賛ヲ得タイト希望スル次第デゴザイマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御質疑ガゴザイマセヌケレバ、右四案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀イタサセマス

(小林書記官朗讀)

府縣制中改正法律案外三件特別委員
公爵池田 宣政君
子爵白川 資長君
子爵富小路隆直君
次田大三郎君
西本健次郎君
松井 茂君
松村 義一君
山上 岩二君

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第十九、民事訴訟法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、司法大臣
昭和十年三月十九日

民事訴訟法中改正法律案
衆議院議長 濱田 國松
貴族院議長公爵近衛文麿殿

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院第五十四條ニ依リ及送付候也

第五百二十二條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム本法施行前ニ開始シタル強制執行ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ第五百七十條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ開始シタル強制執行ニ付テモ亦之ヲ適用ス

(國務大臣小原直君演壇ニ登ル)
〔三箇月〕ニ改ム

附則第二項本文ノ規定ハ前項ノ規定ヲ適用スル場合ニ關シ之ヲ準用ス

(國務大臣小原直君演壇ニ登ル)
〔三箇月〕ニ改ム

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御質疑ガゴザイマセヌケレバ本案ヲ刑罰中改正法律案外十二件ノ特別委員ニ付託イタシマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第二十、不動產融資及損失補償法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、矢吹政務次官

「然レトモ」ヲ削リ「第三號」乃至第八號」ヲ「第一項第三號乃至第八

號」ニ改メ同項ノ前ニ左ノ二項ヲ加フ
前項第二號ノ場合ニ於テ食料又ハ薪炭ニ各數種ノモノアルトキハ執達吏ハ債務者ノ利益ヲ考慮シテ差押ヲ爲ササルコトト定メテアリマスルガ、修正案ニ於キマシテハ此拘束ヲ或程度ニ緩和ヲ致シマシテ、租稅滯納處分中ノ者ト雖モ市町村會議員ノ選舉權ハ之ヲ認メルコト致シ、唯市町村ニ於ケル名譽職擔任ノ資格及道府縣會議員ノ被選舉權ノミヲ上適當ナル御協賛ヲ得タイト希望スル次第デゴザイマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御質疑ガゴザイマセヌケレバ、右四案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀イタサセマス

(小林書記官朗讀)

府縣制中改正法律案外三件特別委員
公爵池田 宣政君
子爵白川 資長君
子爵富小路隆直君
次田大三郎君
西本健次郎君
松井 茂君
松村 義一君
山上 岩二君

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第十九、民事訴訟法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、司法大臣
昭和十年三月十九日

民事訴訟法中改正法律案
衆議院議長 濱田 國松
貴族院議長公爵近衛文麿殿

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院第五十四條ニ依リ及送付候也

第五百二十二條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム本法施行前ニ開始シタル強制執行ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ第五百七十條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ開始シタル強制執行ニ付テモ亦之ヲ適用ス

(國務大臣小原直君演壇ニ登ル)
〔三箇月〕ニ改ム

附則第二項本文ノ規定ハ前項ノ規定ヲ適用スル場合ニ關シ之ヲ準用ス

(國務大臣小原直君演壇ニ登ル)
〔三箇月〕ニ改ム

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御質疑ガゴザイマセヌケレバ本案ヲ刑罰中改正法律案外十二件ノ特別委員ニ付託イタシマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第二十、不動產融資及損失補償法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、矢吹政務次官

不動産融資及損失補償法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十年三月十九日

貴族院議長 濱田 國松
衆議院議長 濱田 國松

不動産融資及損失補償法中改正法律案
不動産融資及損失補償法中改正法律案
第二條中「三年」ヲ「六年」ニ改ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(政府委員男爵矢吹省三君演壇ニ登ル)

○政府委員(男爵矢吹省三君) 只今議題ト
ナリマシタ不動産融資及損失補償法中改正
法律案ニ付テ説明イタシマス、不動産融資
及損失補償法ハ、昭和七年十月之ヲ實施シ
テ以來、銀行ノ信用ヲ確保シ、金融界ノ安
定ニ資スル上ニ多大ノ效果ヲ收メテ參ッタ
ノデアリマスルガ、同法ニ依ル不動産資金
ノ融通期間ハ本年九月末ヲ以テ終了スルコ
トニナッテ居リマス、然ルトコロ最近ニ於ケ
ル銀行ノ不動産固定資産ノ情況ヲ見マスル
ニ、之方整理ハ必シモ既ニ十分ナル進捗ヲ
見タトハ申サレヌノデアリマス、而モ經濟
界ハ未ダ全般的ノ回復ヲ見ルニ至ッテ居リ
マセズ、不動産ノ價格モ亦僅ニ低落ノ歩ヲ
止メタルニ過ギナイ状態ナルニ加ヘマシテ、
昨年中ハ殆ド全國ニ亘ツテ各種ノ災害ガ相
踵イテ起り、之ガ爲ニ銀行ニ於ケル不動産
固定資産ノ整理ハ、一層其進捗ヲ阻害セラ
ルニ至ッタ情況デアリマス、從テ金融疏通
ノ情勢ヲ確保スルガ爲ニハ、今後モ引續キ
右固定資産ノ資本化ヲ助成スルノ必要方ア
ルノデアリマスガ、之ガ爲ニハ本法ニ依ル
不動産資金ノ融通期間ヲ、本年十月以降三
年間延長スルコトヲ適當ト認メマシテ、本
案ヲ提出シタ次第デアリマス、御審議ノ上
何卒御協賛アラムコトヲ望ミマス

○副議長伯爵松平頼壽君 別ニ御質疑ガ
委員ノ氏名ヲ申上ダマス、本案ハ之ヲ酒造
組合法中改正法律案外五件ノ特別委員ニ付
託ヲ致シマス

○子爵大河内輝耕君 政府ニ本案ノ材料ノ
請求ヲ致シタイト思ヒマスガ、宜シウゴザ
イマスカ

○副議長伯爵松平頼壽君 宜シウゴザイ
マス

○子爵大河内輝耕君 此案ハ私ノ方ノ委員
ニ参リマシタ、會期切迫ノコトデゴザイマ
スカラ、政府ノ方ニ於キマシテモ成ルベク
御勉強下サイマシテ、之ニ關スル不動産融
資竝ニ損失補償ニ關スル材料、詰リ不動產
融資ノ現狀トカ、或ハ條件トカ云フヤウナ
マス

○子爵大河内輝耕君 本制度ノ趣旨ヲ達成スル上ニ
現狀ニ鑑ミマスル時ニ、尙ホ融通期間ヲ繼
続イタシマシテ、組合金融ノ疏通ニ資シマ
スルコトガ、本制度ノ趣旨ヲ達成スル上ニ
於キマシテ、最モ適當ナル措置ト考ヘラレ
ルノデアリマス、仍テ組合金融ノ現況、其
整理期間等ヲ考慮イタシマシテ、特別融通
期間ヲ尙更ニ三箇年延長スルコトニ致シタ
イト思ヒマス、何卒御審議ノ上、速ニ御協
賛ヲ垂レ給ハラムコトヲ切望スル次第デゴ
ザイマス

○副議長伯爵松平頼壽君 别ニ御質疑ガ
ゴザイマセヌケレバ、本案ノ特別委員ノ指
名ヲ朗讀イタサセマス

○副議長伯爵松平頼壽君 别ニ御質疑ガ
ゴザイマセヌケレバ、本案ノ特別委員ノ指
名ヲ朗讀イタサセマス

○副議長伯爵松平頼壽君 日程第二十
一、産業組合中央金庫特別融通及損失補償
法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、
第一讀會、守屋政務次官

庫特別融通及損失補償法中改正法律案、提
出ノ理由ヲ簡單ニ御説明申上ダマス、本法
ハ昭和七年十月一日施行以來、相當ノ成績
ヲ舉ゲテ居ルノデゴザイマスガ、其融通期
間ハ本年ノ九月末ヲ以テ終了スルコトニ相
成ツテ居ルノデアリマス、然ルニ産業組合ノ
現狀ニ鑑ミマスル時ニ、尙ホ融通期間ヲ繼
続イタシマシテ、組合金融ノ疏通ニ資シマ
スルコトガ、本制度ノ趣旨ヲ達成スル上ニ
於キマシテ、最モ適當ナル措置ト考ヘラレ
ルノデアリマス、仍テ組合金融ノ現況、其
整理期間等ヲ考慮イタシマシテ、特別融通
期間ヲ尙更ニ三箇年延長スルコトニ致シタ
イト思ヒマス、何卒御審議ノ上、速ニ御協
賛ヲ垂レ給ハラムコトヲ切望スル次第デゴ
ザイマス

○副議長伯爵松平頼壽君 别ニ御質疑ガ
ゴザイマセヌケレバ、本案ノ特別委員ノ指
名ヲ朗讀イタサセマス

金ヲ支出ス
第二條 前條ノ規定ニ依リ國庫ノ支出ス
ヘキ金額ハ毎年度五千七百萬圓ヲ下ラ
サル額トス

第三條 地方財政補整金ハ北海道及府縣
ト市町村トニ對シ左ノ通配分ス
額ノ十分ノ三

二 市町村ニ對シテハ國庫支出額ノ十
分ノ七

第四條 前條第一號ノ國庫支出金ハ勅令
ノ定ムル所ニ依リ其ノ十分ノ一ハ人口
ニ比例シテ之ヲ支給シ、十分ノ九ハ第
五條ノ金額ヲ除キ其ノ殘額ヲ二分シ一
ハ資力ヲ標準トシ他ハ課稅力ヲ標準ト
シテ之ヲ支給ス

第五條 内務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依
リ特ニ必要アリト認ムル北海道、府縣
ニ對シ第三條第一號ノ國庫支出金ノ十
分ノ二ヲ增加スルコトヲ得

額ヲ支給セサルコトヲ得

第十條 本法ノ適用ニ付テハ町村組合ニ
シテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル
モノハ之ヲ一町村、町村制ヲ施行セサ
ル地域ニ於ケル町村ニ準スヘキ公共團
體ハ之ヲ町村ト看做ス

附 則

本法ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○子爵池田政時君 只今議題ト相成リマシ
タ臨時地方財政補整金法案ハ、重要ナル法
案デアリマスルガ故ニ、其特別委員ノ數ヲ
十八名トシ、其指名ヲ議長ニ一任スルノ動
議ヲ提出イタシマス

○副議長伯爵松平頼壽君 贊成

○副議長伯爵松平頼壽君 池田子爵ノ動
議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト

認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀イタサセ

(角倉書記官朗讀)

臨時地方財政補整金法案特別委員

公爵一條 實孝君 侯爵大久保利武君

侯爵大限 信常君 子爵梅小路定行君

子爵野村 益三君 子爵立見 豊丸君

内田 重成君 太田 政弘君

塚本 清治君 男爵岩倉 道俱君

男爵周布 築道君 男爵長 基連君

岡田 文次君 赤池 濃君

橋本辰二郎君 金子元三郎君

宇野 勇作君 大谷 尊山君

○副議長(伯爵松平頼壽君) 日程第二十

三、刑事訴訟法中改正法律案 日程第二十

四、刑事訴訟法中改正法律案 日程第二十

五、舊獨逸膠州租借地還付ニ關スル條約實

施ニ伴フ損失ノ補償ニ關スル法律案

(〔異議ナシト呼フ者アリ〕)

○副議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト

認メマス

刑事訴訟法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

昭和十年三月十九日 衆議院議長 濱田 國松

貴族院議長公爵近衛文麿殿

刑事訴訟法中改正法律案

第十三條 勾留ノ期間ハ二月トス特ニ

繼續ノ必要アル場合ニ於テハ決定ヲ以テ一月毎ニ之ヲ更新スルコトヲ得

第二條 前條ニ規定スル補償金ノ總額ハ

三百七十五萬圓以内トス

右本院提出案及送付候也

昭和十年三月十九日 衆議院議長 濱田 國松

貴族院議長公爵近衛文麿殿

官報號外 刑事訴訟法中改正法律案外二件 第二讀會 政教刷新ニ關スル建議案

昭和十年三月二十一日 貴族院議事速記錄第十九號 刑事訴訟法中改正法律案外二件 第二讀會 政教刷新ニ關スル建議案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第四百四十三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第四百十二條ニ規定スル事由アリ

ト認ムル場合ニ於テ更ニ事實ノ取調ヲ

爲ス必要ナキトキハ判決ヲ以テ原判決

ヲ破毀シテ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

ノ場合ニ於テ他ノ裁判所ヲシテ事實

ノ審理ヲ爲サシムルヲ相當トスルトキ

ハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ原裁判所

ニ接近シタル同様ノ裁判所ヲ指定シテ

事件ヲ其ノ裁判所ニ移送スルコトヲ得

其ノ單ニ私訴ニ係ルトキハ其ノ裁判所

ノ民事部ヲ指定スヘシ

舊獨逸膠州租借地還付ニ關スル條約實

施ニ伴フ損失ノ補償ニ關スル法律案

右本院提出案及送付候也

昭和十年三月十九日 衆議院議長 濱田 國松

貴族院議長公爵近衛文麿殿

第一條 舊獨逸膠州租借地ニ永久的土著

ノ帝國臣民ヲ移植シ帝國ノ利便ニ資セ

ムカ爲ニ政府ノ獎勵保護ノ下ニ政府ノ

施設ニ策應シ永久計畫ヲ以テ舊獨逸膠

州租借地ニ既墾地ヲ買收シ若ハ未墾地

ヲ開拓シ又ハ膠州灣内ニ於テ養貝事業

ヲ經營セル個人又ハ會社力山東懸案解

決ニ關スル條約及山東懸案細目協定ノ

實施ニ伴ヒ帝國軍隊ノ撤退後治安障害

ニ因リテ農業又ハ養貝事業ヲ經營スル

コト能ハサルニ至リタル爲被リタル損

失ニ對シテハ政府ハ本法ニ依リ之ヲ補

償スルコトヲ得

第三條 补償金ハ主務大臣補償審査會ノ

審査ヲ經テ之ヲ決定シ額面金額ニ依リ

國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス

補償審査會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ

之ヲ定ム

第四條 政府ハ前條ノ規定ニ依ル交付ニ

必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スル

コトヲ得

第五條 本法ニ依リ補償金ヲ交付スル場

合ニ於テハ政府ハ當事者ニ對シ補償ノ

目的タル租借權ノ讓渡其ノ他必要ナル

條件ヲ附スルコトヲ得

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○副議長(伯爵松平頼壽君) 別ニ御質疑ガ

ゴザイマセヌケレバ、三案ハ之ヲ刑法中改

正法律案外十三件ノ特別委員ニ付託イタシ

マス

○副議長(伯爵松平頼壽君) 御諸リヲ致シ

タイト存ジマスルガ、總理大臣ハ本日ハ午

前中ハ樞密院ノ本會議ニ出席サレテ居リマ

スルノデ、此方ニ出席ガ出來ナイト云フコ

トデアリマスルカラ、一時茲ニキマシテ

休憩ヲ致シタイト存ジマス、御異議ゴザイ

マセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト

認メマス、午後ハ一時三十分ヨリ開會イタ

シマス

午前十一時十一分休憩

午後一時四十八分開議

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ午後ノ會

議ヲ開キマス、日程第二十六、政教刷新ニ

關スル建議案、侯爵西郷從徳君外五名發

議、今議、建議案ヲ朗讀イタサセマス

(潮古書記官朗讀)

(提出文ハ朗讀ヲ經サルモ参照ノタメ

政教刷新ニ關スル建議案

右貴族院規則第六十九條ニ依リ提出候也

昭和十年三月十九日

發議者

侯爵西郷

從德

伯爵溝口

直亮

菅原

通敬

鶴澤

總明

贊成者

公爵鷹司

信輔

侯爵徳川

義親

侯爵松平

康昌

侯爵大久保

立

子爵保科

正昭

男爵有地

藤三郎

真野

文二

有吉

忠一

伊澤多喜男

川崎 卓吉

男爵黒田

嘉平

橋本圭三郎

桑山 鐵男

男爵中村

謙一

倉知 鐵吉

男爵長

基連

西野 元

古島 一雄

坂野鉄次

赤池 順造

小坂 新吉

田村

濃

柴田善三郎

男爵黒田

長和

岩田 宗造

男爵黑田

徳七

江口 定條

金杉英五郎

小林嘉平治

金藏

方今人心動モレバ輕佻詭激ニ流レ政教

時ニ肇國ノ大義ニ副ハザルモノアリ政府

ハ須ク國體ノ本義ヲ明徴ニシ我ガ古來ノ

國民精神ニ基キ時弊ヲ革メ庶政ヲ更張シ

以テ時艱ノ匡救國運ノ進展ニ萬遺算ナキ

ヲ期セラレムコトヲ望ム

右建議ス

○議長(公爵近衛文麿君) 西郷侯爵

(侯爵西郷從徳君演壇ニ登ル)

御說明申上ダマス、我國現在ノ文化ハ歐米

昭和十年三月十九日

二二七

諸國ニ範ヲ採リマシテ、ソレガ爲ニ一面ニハ學術ハ開ケ、人智ハ進ンダニハ相違ゴザイマセヌガ、他面ニハ往々彼ニ追隨模倣スルニ急デアリマシテ、眞ニ彼ノ長ヲ採リ短ヲ補フト云フ譯ニ參リマセヌノデ、爲ニ政治ニ教育ニ將タ諸般ノ文物制度ニモ、往々肇國ノ大義ニ副ハズ、古來ノ我ガ國民精神ニ悖ル虞アルモノガ少クナイヤウデゴザイマス、從テ國民思想ニモ紛淆ヲ醸シテ、往々徒ニ新シキヲ尚ビ奇ヲ競フテ、輕佻詭激ニ失シ、中道ヲ逸ヅレ、或ハ浮華放縱ニ流レテ、荒怠自棄ニ陥ルモノガ頻々タル事態デゴザイマス、今ヤ我國ハ内外多事多難ナル時局ニ直面シテ居ル際デゴザイマス、從テ政府モ綱紀ヲ振肅シ、國民指導ノ精神ヲ明ニスベキガ當然ノコトト信スルモノデゴザイマス、今日學說ノ批判ヨリ延イテ國體ニ闢シテ迄モ、議論ノ餘地ヲ存スルカノ如キ有様ニ見受ケラレマスコトハ、誠ニ遺憾至極ニ存ジマス、政府ハ篤ト我ガ國體ノ本義ヲ明ニシ、苟モ國體觀念ニ群疑ヲ生ズルガ如キ憂ナキヤウニ致サレ、從來屢々渙發セラレマシタ御詔勅ノ聖意ヲ奉體シテ、古來ノ國民精神ニ基イテ時弊ヲ矯正シ、政治及教育ヲ刷新更張スルト同時ニ、廣ク古來ノ醇風美俗ヲ獎ス、質實剛健ナル民風ヲ振作シテ、益々國運ノ進展ニ全力ヲ傾注セラレルヤウ致シタイト云フノガ本建議案ノ趣旨デゴザイマス、何卒諸君ノ御賛成ヲ希望イタシマス

シタコトハナインデアリマス、此時ニ當リシタコトハナインデアリマス、本貴族院ニ於キマシテ斯カル建議案ノ提出ヲ見ルニ至リマシタコトハ、誠ニ君國ノ爲メ憂慮ニ堪ヘナイ次第デアリマス、併ナガラ顧ミマスレバ、我國ハ長ク歐米ノ唯物文化ヲ模倣イタシマシテ、其弊ガ誠ニ深イモノガアリマス、而シテ今ヤ政治、教育、諸般ノ文物制度等、一切ノ施設ニ大イニ日本精神文化ヲ反省イタシマシテ、新タル文化建設ヲ致サネバナラヌト云フ時、代アリマスルカラ、斯カル建議案ノ提出ヲ見ルノモ誠ニ已ムヲ得ナイ次第デアルト思ヒマス、偶ニ今議會ニ於テ起リマシタル天皇機關說ノ如キハ、其例ノ最モ主ナルモノト言ハナケレバナリマセヌ、實ニ此問題ハ國本ニ關シマスル憲法上ノ根本問題デアリマシテ、憲法ノ補則第七十三條ニ依リマシテ、議會ガ最モ關心スベキ重大事デアル、而モ國家ノ大法トシテ、此問題ハ實ニ憲政史上特筆すべき大事件デアルト考ヘルノデアリマス、吾人ハ此建議案ノ趣旨ヲ達成イタシマスル爲ニハ、彼ノ歐米ノ變亂時ニ於テ作此天皇機關說ヲ打破スルコトガ極メテ急務デアルト感ジ、而シテ之ヲ以テ新興日本ノ爲ニ、政治、教育、諸般ノ文物制度ニ至ルマデ、啓蒙ノ實ヲ創シテ、之ヲ打破スルコトヲ以テ其首途トセバナラヌト考ヘルノデアリマス、抑、現内閣施政ノ綱領ハ、國體ヲ明徴ニスルト云フコトヲ以テ第一義ト致シタノニアリマス、若シ政府ハ此問題ヲ曖昧ニ處斷ラサレ、或ハ其處斷ヲ躊躇サルル如キコトガオアリニナルナラバ、所謂羊頭ヲ掲ゲテ狗肉ヲ賣ルノ譏リヲ免レナイ、且ツ内閣ノ諸公ハ國民ヲ指導スベキ資格ヲ失ハレル、憾ラクハ人

ガ憲法學上ノ論争ハ對立三十年、而シテ天皇機關說ノ、其政治、教育等一切ニ及ボス所ノ弊ハ誠ニ深イモノガアルノデアリマス、或ハ共產黨事件ヲ生ジ、或ハ五・一五事件、或ハ血盟團事件等、幾多ノ大事件ガ深ク之ニ交渉ヲ致シテ居ル、遂ニ現在ハ尊嚴冒瀆トシテ起訴サレテ居ルニ至ッタノデアリマス、憲法學者故穗積博士ハ、丁度「デモクラシー」ガ社會ヲ風靡シテ居リマス時分ニ、其職ヲ退カレタノデアリマスルガ、其最後ノ講義ニ於テ、筆ハ杵ヨリモ重イト云フコトヲ言ハレタノデアル、又故上杉博士ハ社會的ノ迫害ヲ受ケテ、其書齋ノ廻リニハ刃痕ヲ留メテ居ルト云フコトヲ、私ハ其高弟カラ聞イタノデアル、烏兔勿々、今ヤ世界戰爭以來、社會意識ハ反自由主義、反「デモクラシー」主義トナツテ居リ、而シテ意識ニ反省ヲサセラレテ居ルノデアリマス、之ガ爲メ社會團體方國家ノ本質ヲ成スト云フヤウナ民衆主義、自由主義的學說、之ニ反對ノ機運ガ勃興イタシマシテ、今日社會的運動スラ起シテ居ルノガ、其實情アリマス、思想ハ絶エヌ螺旋的ニ反省ヲシツツ前進ヲ續ケテ居ル、法ハ社會心理ニ基イテ存スルト云フ學說ノ所有者ヨ、少クトモニナシテ居ルデアラウ、政府諸公ヨ、何等我ヲ顧ミラレタナラバ、自己ノ論說ニ依リテ自己ガ否定セラレルト云フコトヲ御氣付キニシテ居ルデアラウ、政府諸公ヨ、何等我反省アラムコトヲ望ムノデアリマス、茲ニ巡ツテ居ルヤウナ著作ノ加除訂正、是ハ國民意識ニ背クモノデアリマシテ、政府モ或ハ同罪ニ陥ル感ガナイトハ言ヘナイ、十分御ガ國本ヲ反省ヲシナイ、單ニ平面上ノ圓周ヲツ前進ヲ續ケテ居ル、法ハ社會心理ニ基イテ存スルト云フ學說ノ所有者ヨ、少クトモニナシテ居ルデアラウ、政府諸公ヨ、何等我ヲ顧ミラレタナラバ、自己ノ論說ニ依リテ自己ガ否定セラレルト云フコトヲ御氣付キニシテ居ルデアラウ、政府諸公ヨ、何等我反省アラムコトヲ望ムノデアリマス、茲ニ巡ツテ居ルヤウナ著作ノ加除訂正、是ハ國民意識ニ背クモノデアリマシテ、政府モ或ハ

構成スル思想ヲ概觀スル必要ガアル、著者ハ社會條理意識、サウ云フ言葉ヲ使ッテ居ラレマス、即チ何ガ社會正義デアリ、何ガ社會的利益ニ適スルカト云フコトヲ判断スルノガ極メテ重要デアルト言フテ居ル、就中觀念法學ノ弊ヲ憲法ノ領域デハ避ケネバナラヌト言ツテ居ル、法ガ基礎デアル、觀念ハ之ニ基イテノミ作ラレル、法ガ基礎デアリジテ居ルノデアリマス、而モ此法ノ基礎觀念ハ之ニノミ依ツテ作ラレルモノデアル、此社會的ノ價值判斷デ、何ガ法デアルカラ發見スルノガ最モ主要ナル要素デアルト信念ヲナシテ居ル所ノ本質ノ目的ハ、人類ノ利益ヲ充クスコトニアル、斯ウ云フノデアル、茲ニハツキリト此說ガ唯物論ノ見地ニ立ツテ居ルト云フコトガ讀メルノデアリマス、更ニ法ノ存立ノ基礎ヲ、社會ニ是ハ置イテ居ルノデアリマスルカラ、國家ノ本質ヲ論ズルノニハ、先づ廣ク世界ニ於ケル國家ノ現象ヲ觀察ラシテ、其總テニ共通ナ要素ヲ求メルコトニナツテ居ルノデアル、實ニ此法ガ基礎デアリ、觀念ハ之ニ基イテノミ作ラレルト云フ此理論ハ、所謂國體ニ背反スル所ノ基礎理論デアルノデアリマス、斯ノ如キ美濃部憲法ノ根本的誤謬ハ、憲法ヲ解釋イタシマスルノニ倫理的ノ事實、歷史ト云フモノヲ單ニ觀念デアルト片付ケテシマツテ居ル、而シテ社會科學的ノ、唯物論的ノ見地カラ此憲法ヲ取扱ハムトシテ居ルノデアル、之ガ爲ニ憲法ノ解釋ヲ誤ル者ガ少クナイト迄言フテ居ル、實ニ暴論デアルト言ハナケテ理由トシテ、斯ウ云フ言葉ヲ使ッテ居ルノレバナラヌ、尤モ美濃部憲法ニハ、歴史的ノ事實ヲ觀察スルコトガ絶對ノ要件デアルノガラソレハ其法ノ組織カラハ、前申上ゲマシタ如クニ歴史ヲ除ケテ、國體觀念ヲ無視

シテ居ルノデアル、サウカト思ヒマスルト云フト、其法ノ組織ノ中ニハ社會通念トシテノ社會史的事實ヲ重要ナル要素トシテ、其中ニ織リ込ンデ居ル矛盾ヲ敢テシテ居ルノデアル、我ガ憲法ノ特殊性ヲ全然沒却シ去ツテシマッテ、法萬能デ組織ヲシテ居ルノデアリマス、從ヒマシテ憲法第一條、即チ「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」、此條章ハ日本古來ノ歴史ニ基イテ、日本政體ノ根本原則ヲ宣言シクモノダト申シテ居ルノデアリマス、斯ク觀ジ來リマスト云フト、其著書ニ見エテ居リマスル國體ヲ尊重スルト云フ語ハ、如何ニモ組織ノ中ニ入ッテ居ルカノ如クデアリマスケレドモ、學問トシテハソレハ否定ヲサレテ、却テ反對ニ、其結果ハ君國一致ノ國體ヲ、法學デアルガ故ニト否定シテシマッテ居ル、サウシテ天皇ト國家トヲ分離シテ考ヘテ、茲ニ國家ヲ統治權ノ主體トナシ、天皇ヲ以テ法人國家ヲ代表シテ權利ヲ行フ機關ト觀念ヲシ、所謂天皇機關說ナルモノガ學問上ニ觀念設定ヲサレタノデアル、斯カルコトヲ敢テシタ譯デアル、去ル二月二十六日、菊池男爵ノ御發言ニ對サレマシテ、農業部博士ハ御辯明ヲ爲サレテ居リマス、ソレハ只今マデ再々引合ニ申上ダマシタ、法ガ基礎デアリ、觀念ハ之ニ基イテノミ作ラネバナラナイト云フ國體背反ノ基礎理論ガ此中ニ明カデアリマスルカラ、暫ク速記錄ノ一部分ヲ引證イタシマシテ、所見ヲ述ベテ見タイト思ヒマス、其一節ニ曰ク「我ミ」即チ複數デアリマス、「我々ハ統治ノ權利主體ハ國體トシテノ國家デアルト觀念イタシマシテ」、即チ茲ニ觀念スルノデアリマス、「矢張リ觀念スルノデアリマス、斯ウ云フ風ニナッテ居ル、即チ法學ヲ基礎トシテ勝手ニ觀念スルノデアリ

マス、觀念スルト云フ用語ハ、即チ看做スト云フガ如キ用語デアル、君國一致、肇國以來ノ國民觀念ヲ勝手ニ我ミト云フ複數ヲ用キテ、天皇ト國家トヲ分離シタ國體觀念ヲ新ニ法學ノ上ニ設定シタノデアル、是ハ學問上ニ於テ國體ヲ變革シタモノト云フコトハ争ハレナイ事實デアル、世ニハ曲角方向ニ見タ言葉デアル、斯ノ如キ憲法論ニ至リマシテハ、國體觀念ヲ百八十度ノ方向、全ク正反對ノ方向カラ見タモノデアリマシテ、「マルクス」ハ「ヘーベル」ノ學說ニ逆立ヲシテ居ルト言ハレテ居ル、或ハ禪ノ書物ニ鐵笛倒吹ト云フノガアル、丁度ソレニ似テ、我ガ憲法ノ正解ニ對スル轉倒想デアル、彼ノ春秋ノ際ニ禮樂ガ頽レマシテ、思想ハ益自由トナリマシテ、孔、老、孟、莊ノ諸學ガ勃興イタシマシテ、其極マル所ヲ知リマセヌデシタ、其時ニ堅白異同ノ辯論ハ無學ノ學デアリ、名月鷺ヲ藏シ類シテ同シカラズト云フ禪ノ言葉ガアリマスルガ、蓋シ此學說ヲ批判シテ遺憾ナキモノト思フト云フヤウナ議論ガ行ハレタ、丁度此憲法ノ書物ニヤウナ書イテ置イタラバ、サウシテ其學問ニサウ云フ觀念ヲ織込ンデ行カシテ其學問ニサウ云フ學問ヲ設定シタコトヲ何處カニ書イテ置イタラバ、サウシテ其學問ニサウ云フ觀念ヲ織込ンデ行カシテ其學問ノ上ニ立テルコトが出來ルノデアル、或ハ觀念デアルカラ觀念デアルカラト言フテソレヲ書イテ置イテ、サウシテ學問ハ別ダト言フテ、茲ニサウ云フ學問ヲ設定シタトガアツタナラバ、勝手氣儘ニ國體背反ノ說ヲ其學間ノ上ニ立テルコトが出來ルノデアル、或ハ觀念デアルカラ觀念デアルカラト言フテソレヲ書イテ置イテ、サウシテ學問ハ別ダト言フテ、茲ニサウ云フ學問ヲ設定シタトガアツタナラバ國粹ノ美名ノ下ニ、共産主義ノ學ヲ幾ラデモ組織シテ世ノ中ニ出スコトが出來ル、思想上ノ取締ハ到底出來ルモノデアリマス、勿論是ハ政府ガ辯護ヲ爲ス、テオイデノヤウニ、單ナル學說上ノ問題デハナイ、著者自身ノ序文ヲ御覽ニナルト云フト、是ハ憲法ノ註釋書デアルト言フテ居ラレルノデアル、憲法ニ關スル國體、殊ニ國體ニ疑義ヲ生ズルヤウナ憲法ノ私解ハ許さレルモノデハナイ、又政府ハ、機關說ハノデアリマセヌ、政府ハ本建議案ノ趣旨ニ顧ミラレマシテ、此學問々ト言フテ居ラレル此憲法ノ解釋書ニ、一層ノ御考慮ガ必要ノデハアリマス、若シ夫レ統帥權ノコトニ至リマシテハ、種々論議ヲセラレテ居リマス、其帷幄ノ大令即チ統帥權ニ關シテデアルノデアリマス、若シ夫レ統帥權ノコトニ至リマシテハ、種々論議ヲセラレテ居リマス、其帷幄ノ大令即チ統帥權ニ關シテアリマス、斯ノ如ク政治ニ教育ニ軍隊ニ、要スルニ國民全般ノ思想ニ大影響ヲ與ヘテ居ル所ノ此異學ニ關シマシテハ、政府ハ速ニ其處斷ヲ下サナケレバナラヌノデアル、寛政二年徳川幕府ニ於キマシテ、所謂異學ニ異タル學、異學ノ禁ガゴザイマシタ、ソレハ申ス迄モナク松平樂翁公ガ、林大學頭ニ對シテ朱子學ヲ正シキ學、正學トシテ異學ヲ交ヘナイヤウニ命令ヲシタノデアリマス、當時朱子學以外ノ學者ハ齊シク起チマシテノデハナク、唯官制ト慣習トニ依ツテ定マッテ居ルニ過ギヌノデアルカラ、將來之ヲ改貼リ付ケテ見クナラバ、是ハ恐らく不穩文書ト思ハレルカノ如キモノモナイデハナシテ、言換ヘレバ國ノ最高機關トシテ……

出來ルノデアルカドウカ、殊ニ此憲法ニ關シマシテハ樞密院官制第二章第六條ニ、憲法ノ條項ニ關スル疑義ト云フコトガアリマス、是ハ御諮詢ヲ待ツテ、會議ヲ以テ意見ト云フ其立前カラ、天皇ヲ其機關トシテ說は上奏スルコトニナルノデアリマシテ、之ニ依リマシテモ、斯カル憲法ノ解釋ガ國民ノ群疑ヲ起スト云フヤウナ場合、斯カル開題ハ學說デアルカラ、學說デアルカラト言フテ之ヲ其儘放任シテ置クト云フコトハ、政府何トシテモ考ヘラナイ問題デアル、政府ハ此點ニ於テ十分御考慮ヲナサラナケレバハ此點ニ於テ十分御考慮ヲナサラナケレバナラナイ、斯ノ如クニ著述上ニ、自分ハ國體尊重論者デアルト言ヒマシテ、サウ云フコトヲ何處カニ書イテ置イタラバ、サウシテ其學問ニサウ云フ觀念ヲ織込ンデ行カシテ其學問ニサウ云フ觀念ヲ織込ンデ行カシテ其學問ノ上ニ立テルコトが出來ルノデアル、或ハ觀念デアルカラ觀念デアルカラト言フテソレヲ書イテ置イテ、サウシテ學問ハ別ダト言フテ、茲ニサウ云フ學問ヲ設定シタトガアツタナラバ國粹ノ美名ノ下ニ、共産主義ノ學ヲ幾ラデモ組織シテ世ノ中ニ出スコトが出來ル、思想上ノ取締ハ到底出來ルモノデアリマス、勿論是ハ政府ガ辯護ヲ爲ス、テオイデノヤウニ、單ナル學說上ノ問題デハナイ、著者自身ノ序文ヲ御覽ニナルト云フト、是ハ憲法ノ註釋書デアルト言フテ居ラレルノデアル、憲法ニ關スル國體、殊ニ國體ニ疑義ヲ生ズルヤウナ憲法ノ私解ハ許さレルモノデハナイ、又政府ハ、機關說ハノデアリマセヌ、政府ハ本建議案ノ趣旨ニ顧ミラレマシテ、此學問々ト言フテ居ラレル此憲法ノ解釋書ニ、一層ノ御考慮ガ必要ノデハアリマス、若シ夫レ統帥權ノコトニ至リマシテハ、種々論議ヲセラレテ居リマス、其帷幄ノ大令即チ統帥權ニ關シテアリマス、斯ノ如ク政治ニ教育ニ軍隊ニ、要スルニ國民全般ノ思想ニ大影響ヲ與ヘテ居ル所ノ此異學ニ關シマシテハ、政府ハ速ニ其處斷ヲ下サナケレバナラヌノデアル、寛政二年徳川幕府ニ於キマシテ、所謂異學ニ異タル學、異學ノ禁ガゴザイマシタ、ソレハ申ス迄モナク松平樂翁公ガ、林大學頭ニ對シテ朱子學ヲ正シキ學、正學トシテ異學ヲ交ヘナイヤウニ命令ヲシタノデアリマス、當時朱子學以外ノ學者ハ齊シク起チマシテノデハナク、唯官制ト慣習トニ依ツテ定マッテ居ルニ過ギヌノデアルカラ、將來之ヲ改貼リ付ケテ見クナラバ、是ハ恐らく不穩文書ト思ハレルカノ如キモノモナイデハナシテ、言換ヘレバ國ノ最高機關トシテ……

出來ルノデアルカドウカ、殊ニ此憲法ニ關シマシテハ樞密院官制第二章第六條ニ、憲法ノ條項ニ關スル疑義ト云フコトガアリマス、是ハ御諮詢ヲ待ツテ、會議ヲ以テ意見ト云フ其立前カラ、天皇ヲ其機關トシテ說は上奏スルコトニナルノデアリマシテ、之ニ依リマシテモ、斯カル憲法ノ解釋ガ國民ノ群疑ヲ起スト云フヤウナ場合、斯カル開題ハ學說デアルカラ、學說デアルカラト言フテ之ヲ其儘放任シテ置クト云フコトハ、政府何トシテモ考ヘラナイ問題デアル、政府ハ此點ニ於テ十分御考慮ヲナサラナケレバハ此點ニ於テ十分御考慮ヲナサラナケレバナラナイ、斯ノ如クニ著述上ニ、自分ハ國體尊重論者デアルト言ヒマシテ、サウ云フコトヲ何處カニ書イテ置イタラバ、サウシテ其學問ニサウ云フ觀念ヲ織込ンデ行カシテ其學問ニサウ云フ觀念ヲ織込ンデ行カシテ其學問ノ上ニ立テルコトが出來ルノデアル、或ハ觀念デアルカラ觀念デアルカラト言フテソレヲ書イテ置イテ、サウシテ學問ハ別ダト言フテ、茲ニサウ云フ學問ヲ設定シタトガアツタナラバ國粹ノ美名ノ下ニ、共産主義ノ學ヲ幾ラデモ組織シテ世ノ中ニ出スコトが出來ル、思想上ノ取締ハ到底出來ルモノデアリマス、勿論是ハ政府ガ辯護ヲ爲ス、テオイデノヤウニ、單ナル學說上ノ問題デハナイ、著者自身ノ序文ヲ御覽ニナルト云フト、是ハ憲法ノ註釋書デアルト言フテ居ラレルノデアル、憲法ニ關スル國體、殊ニ國體ニ疑義ヲ生ズルヤウナ憲法ノ私解ハ許さレルモノデハナイ、又政府ハ、機關說ハノデアリマセヌ、政府ハ本建議案ノ趣旨ニ顧ミラレマシテ、此學問々ト言フテ居ラレル此憲法ノ解釋書ニ、一層ノ御考慮ガ必要ノデハアリマス、若シ夫レ統帥權ノコトニ至リマシテハ、種々論議ヲセラレテ居リマス、其帷幄ノ大令即チ統帥權ニ關シテアリマス、斯ノ如ク政治ニ教育ニ軍隊ニ、要スルニ國民全般ノ思想ニ大影響ヲ與ヘテ居ル所ノ此異學ニ關シマシテハ、政府ハ速ニ其處斷ヲ下サナケレバナラヌノデアル、寛政二年徳川幕府ニ於キマシテ、所謂異學ニ異タル學、異學ノ禁ガゴザイマシタ、ソレハ申ス迄モナク松平樂翁公ガ、林大學頭ニ對シテ朱子學ヲ正シキ學、正學トシテ異學ヲ交ヘナイヤウニ命令ヲシタノデアリマス、當時朱子學以外ノ學者ハ齊シク起チマシテノデハナク、唯官制ト慣習トニ依ツテ定マッテ居ルニ過ギヌノデアルカラ、將來之ヲ改貼リ付ケテ見クナラバ、是ハ恐らく不穩文書ト思ハレルカノ如キモノモナイデハナシテ、言換ヘレバ國ノ最高機關トシテ……

ノ弊風ハ此禁令ノ必要ヲ痛感セシメラレマ
シタ、學界ノ狀態ハ諸派ガ相争ヒ、新奇ヲ
好ミ、輕佻浮薄、此建議案ニハ輕佻詭激ト
云フコトガ使シテアリマス、輕佻浮薄ニ陥
テ、篤實純正ノ風ヲ失シテシマッテ居ル、ソ
コデ樂翁公ハ、最初ノ學問ヲ正シクシナイ
時ハ、愈々學シニデ愈々迷ヒ、遂ニ雜學異端ニ陥
ニ於テ一度異學ノ禁令ガ下リマシタラバ、
諸藩モ亦之ニ倣シテ其實行ヲ致シマシタ、天
下ハ靡然トシテ朱子學ニ歸シマシテ思想ノ
統一ガ成リ、實踐躬行ノ態度、篤實率直ノ
風格ガ起シタト、斯ウ云フコトガ歴史ノ上ニ
現ハレテ居ル、私ハ單リ斯ノ如キ思想方面
ノ學問ノミナラズ、科學ノ立場ニ於キマシ
テモ、其科學ノ發見ガ或ハ人心ニ擾搖ヲ來
スガ如キモノガアルト云フヤウナコトデア
ルナラバ、政府ハ其學說ノ發表ヲ、或ハ取
締ル必要ガアルトモ考ヘテ居ル、況ヤ此天
皇機關說ニ至リマシテハ、名ヲ學問ノ自由
ニ藉リマシテ、國體違反ノ學說ヲ敢テシテ居
ルコトハ、是ハ到底樂翁公異學ノ禁ニ比ス
ベクモナイノデアル、本建議案中ノ「政教時
ニ肇國ノ大義ニ副ハザルモノアリ」ト申シテ
居ルノハ、蓋シ斯カル學說ヲ云フテ居ルモ
ノデアリマス、斯カルコトヲ段々ト考ヘテ
參リマスル時ニ、我ガ大學、殊ニ官學ニ於
ケル國體違反ノ學ヲ如何ニ御處置ニナルベ
キカ、是ハ深ク御考ノ上ニ、斷乎トシテ其
決心ヲ御示シニナラナケレバナラナイモノ
ダト考ヘテ居リマス、我ガ大日本帝國統治
權ノ主體ハ天皇ニ存シマツルコトハ、肇國
ト共ニ君國一體、君民一體、サウ云フ形ヲ成
シテ居ル、建國ノ體ト致シマシテ直ニ御示
シニナリマシタ天壤無窮ノ彼ノ神勅ニ依リ
マシテ、炳トシテ其事ガ明カナコトデアル、

憲法第一條ノ「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」ト書カレテアリマスノハ、是ニ憲法義解ニ示シテアル如クニ、憲法ニ依ツテ新シク設ケラレタル義デハナインデアリマス、サウ云フ新シク設ケラレタ意義デハナインデアリマシテ、單ニ國體ヲ憲法ニ依ツテ益々鞏固ニ示サレタモノデアル、斯ノ如キハ明ニ憲法義解ニ示サレテ居ルノデアリマシテ、世人動モスルト之ニ於テ誤リヲ生ズル、本建議案ノ主旨ト致シマスル所ハ、蓋シ帝國憲法ニ現レテ居リマスル所ノ絶エナイ現實トシテ、我ガ歴史ニ一貫シテ居ル御神勅ノ御精神ヲ我ニハ擁護發揚シ奉ツテ、之ヲ政治、教育、文物、一般ノ上ニ斷々乎トシテ實現スルコトヲ希望シテ居ルモノニ外ナラナイノデアル、問題ハ統制下ノ自由、自由ノ上ノ統制、此全體觀ニ問題ガアルト確信ヲ致シテ居リマス、首相閣下、内閣ノ諸公、願ハクハ獨リ天皇ヲシテ社稷ヲ憂ヘシメルコトナク、奉ゼザレバ輔ニ非ズト云フコトヲ能ク御體シ下サリマシテ、國民ノ言ヲ御聽キ下ステ、國體明徴ノ義ヲ御誤リニナラヌコトヲ深ク望ンデ已マナイ次第デアリマス、是ニテ私ノ所見ヲ終リマス（拍手）

○議長（公爵近衛文麿君）　土方寧君

系ノ天
ノハ、是
法ニ依ツ
ス（拍
次第デ
ズト云
國民ノ
御誤リ
ヲ憂ヘ
内閣ノ
アルト
ノ自由
奉ツテ、
断々乎
ノ絶エ
リヲ生
所ハ、
デアリ
スカラ、
多分政
界ノ現
状ヲ見
テ之ヲ肅
正ス
ル必要
ガアルト
云フ意
味デア
ラウト思
ヒマ
ス、如何
ニモ必要
ナコトデ
アリマス、
御承
知ノ通
リ、政
界ガ腐
敗シテ
政黨ガ
國民ノ信
ヲ失^テ
居ルト
云フコト
ハ、公知
ノ事實
デア
リマス、
其原因
ハ種々ア
リマセウ
ガ、一番
主ナ原因
ハ選舉
ガ純良
ニ行ハ
レヌト云
ト云フノ
ト云フコ
トニ在ル
ヤウテア
リマス、
前々議
會デアリ
マシタカ
、同僚ノ
上山君
ガ此壇上
デ公然
、衆議院
ノ議員
中ニ選
舉法ノ制
限以
内ノ費用
デ當選
シテ居
ル者ハ
十人位シ
カナ
イト云フ
コトヲ公
言セラレ
マシタ、否
認ス
ル者ガ誰
モアリマ
セヌ、ソレ
ガ事實ト
スレ
バ衆議院
ハ成立^テ
居ナイ譯
デ、分ラヌ
カラ
看過セラ
レテ居
ルガ、虛
偽ノ議員
ガ多數ヲ
占メテ居
ル、此弊
害ハ、選
舉界ノ腐
敗ト云

ルコトニナリマス、成程候補者が多數ノ有
權者ヲ自分デ買收スル譯ニハ行キマセヌケ
レドモ、選舉區内ノ、ソレヽノ方面ノ
「ブローカー」ヲ經テヤレバ何デモナイ、有
權者一人分ノ費用ハ僅カデアリマスガ、數
ガ多クナルカラ總額ハ大變ナコトニナシテ、
却テ其弊害ヲ助長スルコトニナルダラウト
云フコトヲ豫測シテ申シテ置キマシタガ、
其通リデアル、今日衆議院ノ議員ノ知ツテ居
ル人ニ聞キマスト、アレハ良クナカッタト
皆言ツテ居リマス、隨分大膽デアリマシタ
ガ、此案ガ提案セラレタ時ニ、大變長イ演説
ヲシマシタ、四時間半カ、諸君ニ大變ニ御迷
惑ヲ掛けタノデアリマスガ、實ハ一所懸命ニ
ヤツタノデアリマス、又世界ノ大戰チヨット前
デアリマスガ、西洋ノ文明國デハ、皆何處デモ
普通選舉ニナツテ居ル、是ハ世界ノ立憲制ノ
通義デアルト云フヤウナ立前カラ高調セラ
レタノデアリマス、ケレドモ私ハ是ヲ決シテ
立憲制ノ必要カラ起ツタモノデヤナイ、外ノ
國ハ能ク知リマセヌガ、「イギリス」ノコトハ
能ク知ツテ居リマスガ、「イギリス」ナンカデハ
普通選舉ハ「イギリス」ノ憲法ノ根本ヲ破壊
シテ居ルモノデアル、元「イギリス」ノ憲法
上ノ選舉權ト云フモノハ、納稅ニ依ツテ初メ
テ政府ノ政治ニ容喙スル權利ガアルノガ、
「イギリス」ノ憲法ノ根本デアリマス、ソレ
ヲ覆シタノデアリマス、ソレハ宜イト思ツ
テシタノヂヤアリマセヌ、產業革命以來少
數ノ資產階級ト、大多數ノ……モウ十九世
紀末カラ國民ノ六割七割ハ無產階級ノ勞働
者デアリマセウ、其ノ間ノ利害關係カラシ
マシテ、千八百七十年ノ普通教育實施ノ結
果、從來ハ無學文盲デアツ所ノ多數ノ勞働
者階級ノ者ガ、彼等ノ利益ヲ伸達スル爲ニ、
ナケレバ國ガ立チマセヌ、サウ云フ譯デ據
ナク容レタ、ソレカラ後ノ經驗モ短イ、屹度

普通選舉ニナツタ後ノ立憲制ハ、歐米ノ諸國
デモ屹度結果ガ惡イノデアリマスカラ、御
覽ナサイト言ツテ置キマシタガ、其通リデア
ル、大戰後ノ歐洲ノ文化ハ殆ド破壊セラレ
ル、各國トモ産業界、經濟界、財界、政界
ガ混亂狀態ニアリマス、其難局ヲ打破スル
爲ニハ色々ニナ政策ヲ執ツテ居リマスケレド
モ、何トシテモ普通選舉ニ依ル多數ノ者ノ
歡心ヲ得ナケレバ議決ヲ得ラレヌト云フヤ
ウナ議會デハ、此難局ヲ打破スルダケノ政
策ヲ共ニ議スルコトガ出來マセヌ、立憲制
ハ現在何處ニモ本當ニ行ハレ居リマセ
ヌ、形ダケハ北米合衆國ニアリマスガ、併
シ大統領ニ多大ノ行政權ヲ與ヘマシタカ
ラ、從來ノヤウナ議會ノ働キト云フモノハ
ナイ譯デアリマス、「イギリス」ガ立憲國ノ
本尊ダト申シマスケレドモ、千八百三十一年
年以來政黨ノ内閣デアリマセヌ、動トモス
ルト我國ノ政黨ガ……衆議院ニ多數ヲ制ス
ル政黨ガ政權ヲ得ルノガ憲政ノ常道ダト言
ヒマスガ、ソンナモノハ今ハ何處ニモアリ
マセヌ、「イギリス」デハ千八百三十一年以
來「ナショナル・ガヴァンメント」、譽國一致
内閣デアリマス、ソンナ譯デ其原因ハ多々
アリマセウケレド、普通選舉ガ一大原因ヲ
爲シテ居ルト私ハ見テ居リマス、千八百三
十一年ノ「イギリス」ノ政變ハ、是ハ外ノ
國ニト同様ノコトデアリマスガ、戰爭後非
常ナ不況ニ陥ツテ、歲入ガ減ジ、サウシテ歲
出ハ非常ニ殖エタ、其殖エタ主ナル原因ハ、
大多數ノ失業者ニ對スル失業者ノ手當、勞
働者ノ保險ト云フモノガアリマス、保險金
デアリマス、ソンナモノガ多大ナモノニナ
ル、失業者ガ多クナレバ多クナル程歲入ハ
減ル、歲出ハ多クナル、ソレデ「イギリス」
ノ財界ガ信用ヲ失ツタ、當時マダ世界ノ金融
ノ中心ハ全部「ニューヨーク」ニ移ツテ居リ
マス、矢張リ多年ノ因襲デ、「イギリス」ガ

歐洲ノ諸國ニ對シテハ一種ノ金融ノ中心地デアリマス、短期ノ投資ガ澤山出來テ居リマス、ソレヲ取付ケラレテシマツタ、丁度銀行ノ取付ト同ジコトデアリマス、サウ云フ窮境ニ立ッタ時ニ、當時ノ「マクドナルド」ソレノ率キラレテ居リマス勞働黨内閣ハ絶對多數デアリマセヌ、比較的多數デアリマシテ、自由黨一部ノ援助ヲ得テ居リマスガ、コンナ薄弱ナ内閣デハ到底此難局ヲ打開スルコトガ出來ナイト云フノデ、サウシテ聯立内閣ニナツテ、今デハ赤字ハ清算ヲシテ居リマス、増稅ヲシタリ色ミナコトヲシタリシテ、到頭赤字ヲ克服シテ居リマス、ソシナ譯デ私ノ考デハ、大正十四年ニ若シ我ガ國民ノ如キモ、モウ少シ西洋ノ文化ニカブレテ居ナカッタナラバ、マサカ立憲國ノ通義デアルト云ッテ、宜イ加減ナコトヲシナカツタラウト私ハ思ヒマス、併ナガラ今日デハ既ニ法律デ決マッテ居リマス、納稅ノ資格ガ無クテ選舉權ヲ與ヘラレテ居リマス、既ニ興ヘラレタル權利ヲ剝奪スルト云フコトハ、與ヘザルヨリモ困難デアリマス、私ノ考デハ、近イ將來ニ於テハ之ヲ改正スル必要ガアル、改正スル時ハ今申スヤウナ理由デ、選舉權ヲ剝奪スル譯ニハ行キマセヌカラ、ソレヲ其儘ニシテ置イテ、納稅ヲシナイ者ヲ納稅ラスル者ト同等ニ見ルト云フコトハ、不公平デアリマスカラ、納稅者ニハ二票、或ル額以上ノ納稅者ニハ三票ト云フヤウナコトニシテ、納稅シナイ者ノ投票權ハ一ツニシテ效力ヲ薄クスルト云フヤウナコトモ、一ツノ手段デナイカト思ッテ居リマスガ、他日折ガアッタラ、政府ノ方モサウ云フ選舉法ノ改正ニ付テ御考慮ヲ願ヒタイ、今ノ儘デハ買收ガ盛ニ行ハレテ、人心ヲ悪化スルコトノ甚シイモノデアリマス、今ノ小學校ノ兒童ガ級長ニ選バレル爲ニ、「キヤラメル」鉛筆ヲ皆友達ニヤッテ綴長ニナックタ云フ者ガアリマスガ、ソレヲ惡

イト思ツテ居ナイデセウ、彼等兒童マデ選舉ノ時ニ買收ト云フコトガ公々然ト行ハレテ居ル、是ハ知ラズ識ラズ見聞キシマス、ソンナ譯デ此選舉界ニ於ケル投票ノ賣買等ガ如何ニ人心ヲ腐敗セシメテ居ルカ、測リ知ルベカラザルモノガアリマス、コンナコトガ即チ人心ヲ悪化スル原因デアル、例へバ今日デハ全國ニ地方的ニ澤山ノ競馬ガ行ハレテ居リマス、是ハ私ハ全廢スペキモノト思フ、競馬ハ廢メナイデ宜イト思フ、馬券附ノ競馬、是ハ明治三十年頃デアリマシタガ、馬匹改良ノ爲ニ競馬法ガ出來マシテ、馬券附ノ競馬ガ許サレテ居ツタ、日露戰爭後大變ニ實業界ガ繁昌シタ時分ニ、國民ガ浮華放縱ニ流レマシテ、當時明治天皇ガ大變御軫念遊バサレマシテ、戊申詔書ヲ渙發セラレマシタ、其結果デアリマシカ、其後數年ナラズシテ、馬券附競馬法ヲ斷然禁ジテシマッタノデアリマシタ、其後十年モ經ツト云フト、矢張リ馬券附競馬ヲシナイト云フト馬匹ノ改良ガ出來ナイカラト云フノデ、又許サレルコトニナリマシタ、其時私ハ極力反對シマシタ、馬匹改良ガ必要デアルト云ツテ、人心ヲ悪化シテ宜イト云フノハ、事理顛倒デアル、人ヲ馬鹿ニシタ話デアル、是程人ヲ馬鹿ニシタ例ハ世界中ドコニモアリマスマイ、馬ヲ良クスル爲ニ人ガ悪クナツテモ宜イト云フコトニナル、是ガ本來都會ノ住民ヨリモ堅實ナルベキ農村ノ人民ヲシテ賭博心ヲ挑發セシメ、輕佻浮薄ナラシメテ居ルト云フコトハ、實ニ甚シイモノデアリマス、之ヲ許シテ置イテ人心ガ悪化スル、質實剛健ニナレト云フノハ、矛盾デアリマス、是モ簡單ナコトダ、廢メテシマヘバ宜イ、サウカト云ツテ競馬ハ別ニ賞與ヲヤルトカ、外ノ方法デ以テ出来ヌトハナカラウト思フ、斯様ナコトヲ申シマスト云フト、此建議案ニハ色ニ廣ク書イテアリマス、色ニナコトガ這入ツテ居リマス

カラ、又種々ノコトニ付テ此建議案ノ趣旨ヲ達成スルニ付テ、斯ウモアモ思フコトガ澤山アリマスケレドモ、數時間ヲ要スルノデ、諸君ニ御迷惑ヲ掛ケマスカラ、今日ハ略シマスガ、是非申サナケレバナラヌコトガアトニ残ツテ居リマス、ソレハ建議案ニモ、或ハ西郷侯ノ建議案ノ御説明ノ中ニモ、故ラニ其言葉ハ御使ヒニナリマセナカツタケレドモ、只今ノ井田男爵ノ御賛成ノ演説ノ中ニ、昨今本貴族院ニ於テ、衆議院ニ於テ、院外ノ諸種ノ團體ニ於テ、盛ニ論議セラレテ居リマス、美濃部博士ノ憲法論デアリマス、天皇機關説デアリマス、ソレヲ主トスルト云フ論デアリマス、其主トスル趣意ハ、院内外デ盛ニ論議セラレテ居リマス、此席デモ井田男爵カラ拜聽イタシマシタ、同ジヤウナコトハ繰返スコトハ差控ヘマス、天皇機關説ガ不可デアルト云ヘバ、ソンナラバ天皇ノ御本質、國家ノ本體、兩者ノ關係ヲドウ見レバ我國ノ國體ト云フモノノ真相ヲ正解スルコトガ出來ルカト云フ方ノ説明ニ至リマシテハ、寡聞ナガラ私マダ多ク聞クコトヲ得マセヌノヲ遺憾ト致シマス、ソレニハ私ハ餘程前カラ此問題ニ付テハ一個ノ意見ヲ持ツテ居リマス、其意見ヲ述ベマシテ此建議案ニ贊成ノ趣意トスル積リデアリマス、結論ヲ先ニ申シマス、私ノ考ヘマスル所ニ依リマスト云フト、我ガ大日本帝國、我ガ國家ハ如何様ノ構成分子カラ成立シテ居ルモノデアルカト云フコトニ付キマシテハ、斯ウ考ヘテ居ル、我ガ國家ハ生存シテ居ル國民デアリマス、是ガ一つ、ソレト國家ノ中心、即チ元首トシテノ天皇ト、此三者ヲ以テ構成セラレテ居ルノデアリマス、三者ヲ以テ構成セラレタ所ノ一體デアル、斯ウ見ルノガ我國家ノ本體ト、

國家ニ對スル天皇ノ御本質、兩ツナガラ正シク解シタモノノデアルト確信シテ居リマス、或ハ天皇即チ國家ト云フヤウナ說モ聞キマスガ、私ニハドウ云フ意味力能ク了解シ兼ネマス、或ハ君民一體ナドト云フコトヲ言ヒマス、是モ私ガ申スヤウニ色ニナ構成分子カラ出來タモノノデ一體ニナッテ居ルト云フノト同ジヤウナコトニナリハシマイカト思ヒマスガ、唯構成分子ヲ明ニ説明シテ居ナイト云フ嫌ガアリマス、此一體トナックタ國ハ無論無形ノ觀念デアリマス、領土ガ有形デアルノハ論ガナイ、其上ニ住マッテ居ル多數ノ國民モ有形ナ自然人デアリマス、天皇モ、是ハ天皇ノ御人格ニ付テ申シマスガ、是ハ矢張リ玉體ヲ有セラレル有形ノ方デアリマス、ケレドモ三ツノ者ヲ集メタモノハ、無形ノ觀念デアリマス、次ニ天皇ノ御本質ニ付テ考ヘル所ヲ申上ゲマス、我ガ天皇ハ現人神デアラセラレマスニアラヒトガミニデアラセラレマス、即チ神格ト人格ト兩ツナガラ併セ御持チニナッテ居リマス、人格トシテノ天皇ハ玉體ヲ持テオイデニナリマス、御料ノ財産モ持テオイデニナリマス、政務ニ直接關係ノナイ御用ハ宮内省ヲ設ケテ辨ジテ居リマス、此天皇ハ、今上天皇ハ我ニ赤子トシマシテハ聖壽萬歲ヲ期スル譯デアリマスガ、併シ人格者タル天皇ニ對シ奉リマシテ、聖壽萬歲ヲ期シテモ文字通りハ出來ヌコトハ言フ迄モアリマセヌ、ソレハ建國以來初代ノ神武天皇ヨリ歴代ノ天皇ヲ經テ、今上天皇迄百二十四代、百二十四遍代ヅテ居ルコトヲ以テ分リマセウ、是ハ人格者トシテノ天皇デアリマス、併ナガラ天皇トシテ最モ我ニガ崇敬スル、眞ニ生神様ト思フテ我ニガ崇メ奉ル所ノモノハ、神格ヲ持テオイデニナルカラデアリマス、此神格ハ古ク神代ヨリ初代ノ人皇カラ歷代ノ天皇ヲ經テ、今上天皇ニ至ル迄皇統連錦一瞬間モ斷絶スルコト無ク、確定不動今日迄至ヅテ居リマス、此神格者ノ地位ハ大御位デアリマス、眞ニ寶祚無窮デアリマス、建國以來今日迄二千五百九十五年、將來ハ無限ト云フ意味デアリマス、國民ノコトヲ少シ申上ゲマス、只今申ス通リ我國ハ國民ガ集テ家ヲ成シ、天皇ノ統治ノ下ニ其家

ガ集ツテ國ヲ成シテ居ルト云フコトヲ申シテ置キマシタガ、此事ヲ申シテ置キマス、何故申スカト云フト、此點ヲ知識階級ノ人カト思ヒマスガ、唯構成分子ヲ明ニ説明シテ居ナイト云フ嫌ガアリマス、此一體トナックタ國ハ無論無形ノ觀念デアリマス、領土ガ有形デアルノハ論ガナイ、其上ニ住マッテ居ル多數ノ國民モ有形ナ自然人デアリマス、天皇モ、是ハ天皇ノ御人格ニ付テ申シマスガ、是ハ矢張リ玉體ヲ有セラレル有形ノ方デアリマス、ケレドモ三ツノ者ヲ集メタモノハ、無形ノ觀念デアリマス、次ニ天皇ノ御本質ニ付テ考ヘル所ヲ申上ゲマス、我ガ天皇ハ現人神デアラセラレマスニアラヒトガミニデアラセラレマス、即チ神格ト人格ト兩ツナガラ併セ御持チニナッテ居リマス、人格トシテノ天皇ハ玉體ヲ持テオイデニナリマス、御料ノ財産モ持テオイデニナリマス、政務ニ直接關係ノナイ御用ハ宮内省ヲ設ケテ辨ジテ居リマス、此天皇ハ、今上天皇ハ我ニ赤子トシマシテハ聖壽萬歲ヲ期スル譯デアリマスガ、併シ人格者タル天皇ニ對シ奉リマシテ、聖壽萬歲ヲ期シテモ文字通りハ出來ヌコトハ言フ迄モアリマセヌ、ソレハ建國以來初代ノ神武天皇ヨリ歴代ノ天皇ヲ經テ、今上天皇迄百二十四代、百二十四遍代ヅテ居ルコトヲ以テ分リマセウ、是ハ人格者トシテノ天皇デアリマス、併ナガラ天皇トシテ最モ我ニガ崇敬スル、眞ニ生神様ト思フテ我ニガ崇メ奉ル所ノモノハ、神格ヲ持テオイデニナルカラデアリマス、此神格ハ古ク神代ヨリ初代ノ人皇カラ歷代ノ天皇ヲ經テ、今上天皇ニ至ル迄皇統連錦一瞬間モ斷絶スルコト無ク、確定不動今日迄至ヅテ居リマス、此神格者ノ地位ハ大御位デアリマス、眞ニ寶祚無窮デアリマス、建國以來今日迄二千五百九十五年、將來ハ無限ト云フ意味デアリマス、國民ノコトヲ少シ申上ゲマス、只今申ス通リ我國ハ國民ガ集テ家ヲ成シ、天皇ノ統治ノ下ニ其家

ガ集ツテ國ヲ成シテ居ルト云フコトヲ申シテ置キマシタガ、此事ヲ申シテ置キマス、何故申スカト云フト、此點ヲ知識階級ノ人カト思ヒマスガ、唯構成分子ヲ明ニ説明シテ居ナイト云フ嫌ガアリマス、此一體トナックタ國ハ無論無形ノ觀念デアリマス、領土ガ有形デアルノハ論ガナイ、其上ニ住マッテ居ル多數ノ國民モ有形ナ自然人デアリマス、天皇モ、是ハ天皇ノ御人格ニ付テ申シマスガ、是ハ矢張リ玉體ヲ有セラレル有形ノ方デアリマス、ケレドモ三ツノ者ヲ集メタモノハ、無形ノ觀念デアリマス、次ニ天皇ノ御本質ニ付テ考ヘル所ヲ申上ゲマス、我ガ天皇ハ現人神デアラセラレマスニアラヒトガミニデアラセラレマス、即チ神格ト人格ト兩ツナガラ併セ御持チニナッテ居リマス、人格トシテノ天皇ハ玉體ヲ持テオイデニナリマス、御料ノ財産モ持テオイデニナリマス、政務ニ直接關係ノナイ御用ハ宮内省ヲ設ケテ辨ジテ居リマス、此天皇ハ、今上天皇ハ我ニ赤子トシマシテハ聖壽萬歲ヲ期スル譯デアリマスガ、併シ人格者タル天皇ニ對シ奉リマシテ、聖壽萬歲ヲ期シテモ文字通りハ出來ヌコトハ言フ迄モアリマセヌ、ソレハ建國以來初代ノ神武天皇ヨリ歴代ノ天皇ヲ經テ、今上天皇迄百二十四代、百二十四遍代ヅテ居ルコトヲ以テ分リマセウ、是ハ人格者トシテノ天皇デアリマス、併ナガラ天皇トシテ最モ我ニガ崇敬スル、眞ニ生神様ト思フテ我ニガ崇メ奉ル所ノモノハ、神格ヲ持テオイデニナルカラデアリマス、此神格ハ古ク神代ヨリ初代ノ人皇カラ歷代ノ天皇ヲ經テ、今上天皇ニ至ル迄皇統連錦一瞬間モ斷絶スルコト無ク、確定不動今日迄至ヅテ居リマス、此神格者ノ地位ハ大御位デアリマス、眞ニ寶祚無窮デアリマス、建國以來今日迄二千五百九十五年、將來ハ無限ト云フ意味デアリマス、國民ノコトヲ少シ申上ゲマス、只今申ス通リ我國ハ國民ガ集テ家ヲ成シ、天皇ノ統治ノ下ニ其家

ガ集ツテ國ヲ成シテ居ルト云フコトヲ申シテ置キマシタガ、此事ヲ申シテ置キマス、何故申スカト云フト、此點ヲ知識階級ノ人カト思ヒマスガ、唯構成分子ヲ明ニ説明シテ居ナイト云フ嫌ガアリマス、此一體トナックタ國ハ無論無形ノ觀念デアリマス、領土ガ有形デアルノハ論ガナイ、其上ニ住マッテ居ル多數ノ國民モ有形ナ自然人デアリマス、天皇モ、是ハ天皇ノ御人格ニ付テ申シマスガ、是ハ矢張リ玉體ヲ有セラレル有形ノ方デアリマス、ケレドモ三ツノ者ヲ集メタモノハ、無形ノ觀念デアリマス、次ニ天皇ノ御本質ニ付テ考ヘル所ヲ申上ゲマス、我ガ天皇ハ現人神デアラセラレマスニアラヒトガミニデアラセラレマス、即チ神格ト人格ト兩ツナガラ併セ御持チニナッテ居リマス、人格トシテノ天皇ハ玉體ヲ持テオイデニナリマス、御料ノ財産モ持テオイデニナリマス、政務ニ直接關係ノナイ御用ハ宮内省ヲ設ケテ辨ジテ居リマス、此天皇ハ、今上天皇ハ我ニ赤子トシマシテハ聖壽萬歲ヲ期スル譯デアリマスガ、併シ人格者タル天皇ニ對シ奉リマシテ、聖壽萬歲ヲ期シテモ文字通りハ出來ヌコトハ言フ迄モアリマセヌ、ソレハ建國以来初代ノ神武天皇ヨリ歴代ノ天皇ヲ經テ、今上天皇迄百二十四代、百二十四遍代ヅテ居ルコトヲ以テ分リマセウ、是ハ人格者トシテノ天皇デアリマス、併ナガラ天皇トシテ最モ我ニガ崇敬スル、眞ニ生神様ト思フテ我ニガ崇メ奉ル所ノモノハ、神格ヲ持テオイデニナルカラデアリマス、此神格ハ古ク神代ヨリ初代ノ人皇カラ歷代ノ天皇ヲ經テ、今上天皇ニ至ル迄皇統連錦一瞬間モ斷絶スルコト無ク、確定不動今日迄至ヅテ居リマス、此神格者ノ地位ハ大御位デアリマス、眞ニ寶祚無窮デアリマス、建國以来今日迄二千五百九十五年、將來ハ無限ト云フ意味デアリマス、國民ノコトヲ少シ申上ゲマス、只今申ス通リ我國ハ國民ガ集テ家ヲ成シ、天皇ノ統治ノ下ニ其家

ハ勝手ニ制限スルコトガ出來ルカ、他人ノ
債務ニ對シテ自分ノ財產ノ一部ノ責任ヲ局
限スルコトガ出來ルカ、出來ナイダラウ、
一人ガ出來ナケレバ、十人集シテモ、百人
集シテモ、千人集シテモ同ジコトデヤナイカ
ト云フコトデ、有限株式會社ト云フモノデ
モナカノ、認メラレナカタ、大變難產デア
リマシタ、ソレガ出來ルカ、出來ナイダラウ、
ニ依テ多數ノ者カラ資金ヲ醸出シテ、サウ
シテ大事業ヲスルト云フコトハ、之ニ携ハ
ル人ミノ私ノ利益ノミデハナイ、是ガ即チ
國ノ富ヲ増ス所以デアル、公益上有益デア
ルト云フノデ、嚴格ナル裁判所ノ法律論ニ
對スル例外トシテ僅ニ認メラレタノガ千八
百四十二年デアリマス、マダ百年ニナリマ
セヌ、「フランス」ヤ「ドイツ」デ之ニ倣タ
ノハソレヨリ數年後デアリマス、此有限
株式會社ガ認メラレルコトニナッタ時ニ初
メテ法人ト云フ考ガ起シタノデヤナインデ、
是ハ古イ話デス、法律上法人ト云フ觀念
ソレヲ應用シタニ過ギマセヌ、法人ト云ヘ
バ直グニ有限株式會社ノミヲ豫想スルト云
フコトハ、マア法律ヲオヤリニナラヌ方ハ
無理ノナイコトダケレドモ、法人ト云フ觀
念ヲ御持チニナラヌカラデアリマス、法人
ハ、日本ノ民法ニ於キマシモ財團法人ト云
フモノガアル、公益法人ニ限リマス、社團法
人ト云フモノガアル、社團法人ハ、營利ヲ
目的トスルモノハ商法ノ所謂會社デアル、
其營利ヲ目的トシナイン民法ノ社團法人ヤ財
團法人ナドノ申ニハ、何モサウ、其首腦ニ
ナシテ居ル人ト幾分似タ所ガアルト申シテ
モ、ソレ程不都合ハナイト思ラガ、儲ヶラス
ル有限株式會社ノ社長ナラ社長ト同ジト云
フコトハ、如何ニモ誰ガ見テモラカシク聞エル、
茲ニチヨット序ニ申シタイコトハ、只今申シ
タ通リニ、我國其他ノ國ニ財團法人ト云フモ
ノガアル、實ハ奇妙ナモノデス、財產ト云フモ
ノハ人ノ權利、人間ノ權利ノ客體トナルベキ
ガ本體デアル、或場合ニハ財產權ハ主體ニ
ナルト云フノハ是ハ變ナ見方デアリマス、
ケレドモ是ハ色ニナ理由デ其便宜ヲ圖ル爲
ニサウ見テ居ル、所ガ「イギリス」ニハ財團
法人ナドト云フモノハアリマセヌ、其代リ
「イギリス」ニ限ル妙ナモノガアル、ソレハ

単獨法人ト云フ、タッタ一人ノ人ガ法人ト云フ、單獨自然人ヲ法人ト見ル、是ハ「イギリス」、マスガ、ドウカ直接此建議案ニ關係ノアル、ト云フコトトモ、モウ一ツハ「イギリス」ニハ信託業法ノ下ニ據テ信託法ガ出来マシテ、信託銀行ガ出來テ居リマスガ、「イギリス」ニ數百年來行ハレテ居ル信託其モノヘ、マダ日本人ハ利用シテ居ナイヤウデアリマス、一方ニモ大體ソレスガ、信託ト云フモノガアリマス、一方ニモ大體信託ガアリ、一方ニ單獨法人ノ觀念ガアル、此兩者ヲ利用スレバ財團法人ト云フヤウナ觀念ノ必要ガナイカラ、「イギリス」ニハ財團法人ト云フモノハアリマセヌ、其單獨法人、一自然人ヲ法人ト見ルト云フコトハ、サウ適用ハ廣クアリマセヌガ、最モ古イ所ハ寺ノ住職デアリマス、「イギリス」ノ國民ガ耶蘇教ニ歸依シテ以來、全國ヲ……〔簡單ニ顯ヒマス「ト呼フ者アリ〕多クノ小區ニ分チマシテ、コハリシニト申シマス、其「ハリシ」ニ毎ニハリシユ。チヤーチ、即チ寺院ヲ設置シマシテ住職ヲ置キタ、ソレハ少シ違ヒマスガ、マア「レクトル」トカ「ビッグ」トカ申シマスガ、是ガ單獨法人ダト申シマシテ、何モ深イ意味ナアリマセヌ、或寺ノ住職ガ甲デアル、甲ガ寺ノ住職トシテ他人トノ法律行為ヲスガ、所ガ住職ハ死ンダ、或ハ轉任シタ、サウシテ其同ジ寺ノ住職ガ乙ニナツタ、其爲ニ前後ノ甲ノ時分ノ他人トノ契約ナラ契約ガ無效ニナツタ日ニハ雙方不便デアリマス、ソレダカラ、甲ガ乙ニ變ッテモ、或寺ノ住職ト云フ地位ハ同ジモノダト云フコトヲ現ハス爲ニ、住職ト云フモノハ法人デアルト云ヒマス、ソレハ古クカラ不文ノ慣習法デサウ見テ居リマス、最近ニ單獨法人ト見タモノハ、立法ニ依ル有給ノ受託官デアリマス、只今申ス通り、「イギリス」デハ信託ト云フモノガアリマシテ……○議長(公爵近衛文麿君) 土方君ニ申上ガ
○土方寧君 今ノコトヲモウ少シ進メマス
(簡単ニ願ヒマス「ト呼フ者アリ)
範圍ニ御止メヲ願ヒマス
是ハ前ノ論理ノ方ノ参考ニナルコト思ヒ

「ジユシヤル・トランティ」ト云フモノガ出来マシタガ、ソレモ餘リ利用シナイデ、最近ニ於キマシテ有給ノ受託官ト云フモノヲ置キマシテ、信託行爲ノ設定者ハ自然人ノ受託者ト共ニ、或ハ有給ノ受託官ト云フモノヲ單獨ニ受託し、其受託官ノシタコトニ對シテ國家が責任ヲ負フト云フコトニナツテ居リマス、サウシテ其受託官ト云フモノハ單獨法人ト云フコトニナツテ居リマス、甲ガ乙ニ變ラウガ、乙ガ丙ニ變ラウガ、受託者ハ同じモノダト云フコトニ見テ居ル、モット大キイモノハ、是ハ不文ノ憲法ノ上ノ一つノ格言アリマスガ、「イギリス」ノ國王ハ單獨法人ト云フコトニナツテ居ル、「キング・イズ・コレベーリーション・ソール」、「イギリス」ノ國王ハ單獨法人デアル……
〔議長ト呼フ者アリ〕

○議長（公爵近衛文麿君） 今發言中デゴザ
○土方寧君 「イギリス」ノ國王ト云フモノハ……
〔子爵三室戸敬光君「議事進行ニ付テ」
ト述フ〕

○議長（公爵近衛文麿君） 議長ニ御委セラ
願ヒマス

○土方寧君 モウ少シデ濟ミマス、「キング・ネヴァー・ダイズ」ト云フコトヲ申
「子爵三室戸敬光君「議長、議事進行ニ付テ發言ヲ御許シニナリマセヌカ」ト述フ」

「ギング・ネヴァー・ダイズ」ト云フコトヲ申
シマス、是ハ普通ノ英語ノ通りニ解シマスト、眞ツ赤ナ嘘デアリマス、「ヴィクトリア」
皇帝ガ崩ゼラレテ……

○議長（公爵近衛文麿君） 土方君、ドウカ
成ルベク此範圍ニ……

○土方寧君 私ハ天皇機關説ノコトニ非常
ニ参考ニナルト思ツテ……

○議長（公爵近衛文麿君） 成ルベク簡単
ニ……

○土方寧君 大方濟ミマス、キング・イズ・
コリベレリション・ソールト云フノハ、文

○土方寧君 大方濟ミマス、キング・イズ、
コ一ペレーシヨン・ソールト云フノハ、文
字通り解セバ當ラヌコトデアリマス、
イクトリア「皇帝ガ崩ゼラレ、エドワード
七世ガ位ニ即カレテ、ジヨージ五世ニナツ
テ變シテ居リマスケレドモ、ソレハ何ヲ意味
スルカト云ヘバ、王位ト云フモノハ不滅デ
アル、王位ニ在ル肉體ノ王様ナリ、女王様
ガ御亡クナリニナツモ、王位其モノハ一定
不動デ、一瞬間モ空虚ガナイト云フ意味カ
ラ、其王位ヲ持ツテ居ル方ヲ法人デアルト云
フ法人觀ガアル、斯ウ云フノデス、此見方
ナラ「イギリス」ダケノコトデアリマスケレ
ドモ、或見様ニ依ツテハ、我ミガ天皇ノ人格
者トシテノ御本質ト云フモノヲ解スルト餘
程似タ所ガアルト思ヒマスカラ、引合ヒニ
御話シマシタ、是デモウ終リマスガ、最後
ニ諸君ニ御頼ヒシマス、私ハ此天皇幾闇説
ニ付テ反對論ハ聞キマスガ、ソレヲ排斥シ
テ積極的ニ趣旨ヲ説明シタサウ云フ説ヲ多
ク聞クコトハ出來マセヌカラ、殘念ニ思ツテ
居リマス、自分ハ先刻來申シタヤウナ考デ、
我國ノ國體ト云フモノノ本體ヲ明ニスルコ
トガ出來ルト信ジテ居リマスケレドモ、私
ハ國史ノ素養ニ乏シイノデアリマスカラ、
私が先刻申シタヤウナ説明ノ仕方デハ或ハ
不都合ガアルカモ分リマヌ、ガ自分ニハ
氣付キマセヌ、ソレダカラ、若シオ前ノ言
フヤウナコトデハ斯ウ云フ所ガ良クナイ、
アア云フ所ガ良クナイト云フコトガ御氣付
キニナリマシタナラバ、此壇上デ討論ヲ求
メル譯デアリマセヌガ、ドウカ御好意ヲ以
テ御注意ヲ傳ヒタク、ト云フノハ私ハ問題
ガコントニヤカマシクナリマシクカラ、折ミ
色ミナ所ヘ講演ヲ賴マレテ行ツタリシマス
場合ニ依ルト、此日本ノ國體ノ本義トカ云
タヤウナコトニ付テ話シマスガ、今申上げ
良イ積リナンデスケレドモ、若シ間違ツ
居ツタナラバ、良イ積リナノニ却テ害ヲ招キ
マスカラ、ドウカ私ガ思フ所ヲ御聞キ下サッ
テ、サウンシテオ前ノ言ツタコトデモ或部介
トガアリマシタナラバ、ドウカ御叱正ヲ願
ヒタタイト思ヒマス

○議長（公爵近衛文麿君） 三上參次君

○議長（公爵新衛文麿君）三上參次君
〔三上參次君演壇ニ登ル〕
○三上夢次君 今日ノ建議案ニ付キマシテ、モウ既ニ西郷侯爵ノ簡潔ナル御説明ガアリ、又井田男爵ノ過強ナル御説明ガアリ、士方博士ノ稍詳細ナル御説明モアッタ譯アリマスルガ、私ガ更ニ蛇足ヲ添ヘル必要ハナイト思ヒマスルケレドモ、私ノ立場トシテ教育ノ方面カラ、簡単ニ所見ヲ申シテ贊成ノ意ヲ表シタイン思フノデアリマス、私ハ元來今日ノ問題トナツテ居リマスル天皇機關説ノ如キハ、事ハ重大ナリト雖モ、明治以來教育ノ誤ダタル方針ガ斯ノ如キ現象ヲ茲ニ一ツ現ハシタノデアッテ、明治以來ノ教育ノ自然ノ結果ノ一ツトシテ、我ニハ憫マサレナケレバナラヌモノト感ズル次第アリマス、明治以來五六十年ノ教育ト云フモノハ、日本人トシテ折角學アベキ所ノ事ヲバ多ク閑却イタシテ、甚ダ空虚ナ人間ニ成長シテ居ルト私ハ思フノデアル、固ヨリ明治ノ御一新ノ方針トシテ、世界ニ智識ヲ廣クメルト云フコトハイツノ世ニナツテモ必要ノコトデアリマシテ、今日ト雖モ、今日以後ト雖モ、必要ナルコトデアリマス、併ナガラ唯如何ニモソレガ爲ニ忙殺サレテ、肝腎ノ國民トシテ自分ノ國ノ事ヲ學アベキコトヲ閑却シテ居シタ云フコトハ、時勢ノ已ムラ得ザルコトハ云ヒナガラ、甚ダ遺憾ニ堪ヘナカツタ次第デアルノデアリマス、其一ツノ結果トシテ今日ノ如キ問題が現ハレ、サウシテ今日提出セラレシタ所ノ建議案ノ必要ト云フヤウナコトガ現ハレテ來タモノト思フノデアル、此建議案ノ文句ハ簡単アリマスルケレドモ、意味ハ深長デアッテ、論語ノ文句ノ如ク、如何ヤウニモ意味深長ニ解釋ノ出來モノデアリマス、併ナガラ私が教育ノ上カラ一言申上ガルトモノヲ文部省ガ布カレマシテ、全國的ニ普通教育ヲ普ク及ボスト云フコトニナツ、其時ニ歴史ト云フ科目ガアリマシタガ、何ヲ教ヘタカト云ヘバ、日本ノ國民ニ最初カラ西洋ノ歴史ヲ教ヘタノデアッテ、自分ノ國ノ

イノデアリマス、文部省ノ學校ニ於テハサ
ウデアル、私塾ニ於テハ教ヘテ居リマシタ、
我ミガ中學校ヲ經マシテ第一高等學校ノ前
身、即チ大學豫備門ニ這入リマンシ時ニ、
初メテ國史ト云フモノヲ、教場ニ於テ一週
間ニ一時間課セラレタノデアリマス、而モ
ソレハ誰ノ建言ニ依ツタカト云ヘバ、獨逸語
ノ教師ノ「グロート」ト云フ獨逸人ガ校長ニ
建言シテ、漸クソレガ行ハレタノデアル、
我國固有ノ學問ガ如何ニ輕ンジラレテ居ツ
タカト云フコトガ、此一ツノ御話ニ依ツテ
モ大抵回顧スルコトガ出來ルト思フノデア
リマス、其後段々聲ヲ經マシテ、教育ノ方
針ト云フモノハ正シク返ツテ來マシタケレ
ドモ、尙ホ其痕跡ノ残ツテ居ルト云フコト
ハ、今日ノ有ラユル高等學校ニ於テ歴史ヲ
教ヘテ居リマス時間ト云フモノハ、三年ヲ
通ジテ十時間デアル、然ルニ其中デ國史ハ
幾ラ教ヘテ居リマスカト云フト、外國ノ歷
史ヲ十教ヘル中德國史ト云フモノハ僅ニ二
ナノデス、海軍ノ比率ノ五、五、三ヨリハ
餘程分量ガ少イ、斯ノ如キ……今日ニ於テ
モサウ云フ比率ノ少イ時間デ國民精神ヲ養
フト云ヤウナ教育ヲシテ居ツテ、身體ガ空
虚度アレバ、外カラ色ミノ外來ノ悪空氣ガ
入ツテ來ルト云フコトハ當然ノコトデハア
リマセヌカ、文部大臣ハ此點ヲドウ云フ風
考ヘニナラズ、依然トシテ十時間ノ中デ僅
ニ二時間、五、一ト云フ比率デ外國歴史ト
サウ云フコトヲ文部大臣ニ建議シタコトガ
アリマスケレドモ、一向文部大臣ハマダ御
ニ御考ヘニナシテ居リマセウカ、私ハ數年
日本史ヲヤッテ居ル、以テホラ類推スルニ
足ルト思フノデアリマス、ソヨデ外國ノ知
識ガ澤山入ツテ參リマスルガ、其外國ノ知識
ニ於テモ、法律萬能ト云フコトヲ私ハ絶叫
シタインノデアリマス、ハ政府者ニ於テモ法
律ノ學科ヲ學バレタ人ガ多イノデアリマシ
テ、甚ダ憚多イコトデアリマスケレドモ、
此議場ニ於テモ法律ヲ御學ビニナック方ガ
蓋シ大多數デアラウト思フ、世ノ中ラ舉ゲ
テ法律萬能デアル、其法律タルヤ、固ヨリ
國家經營ノ上ニ大ナル事柄デアリマスルケ
レドモ、初ハ我國ヲ條約改正ト云フコトヲ

セシメムガ爲ニ、強ヒテ自分ノ足ヲ削ヅテ
外國ノ靴ニ合セルト云フ法律ガ本ニナッテ
居ルノデアリマス、茲ニ於テ民法ト云フ精
細ナルモノガ出來マシタケレドモ、其中ニ
規定シテアルコトハ、我國三千年來ノ善風良
俗ニ合ハナイコトガ澤山アルノデアリマス、
日本人ハ下ウデモ宜イ、外國人ノ都合サヘ
好クテ、條約改正ニ一步ヲ進メルコトガ出
來レバ能事足レリト云フコトデ出來タ法律
デアル、其後追改善ヲセラレマスルヤウデ
アリマスルケレドモ、是ハ甚ダ言フヲ憚ル
コトデアリマスケレドモ、其法律改正委員ノ
中ニ、我國ノ古來ノ善政美風ヲ研究シテ居
ル人ハ餘り多クナイヤウニ、殘念ナガラ見
受ケルノデアリマス、加之、諸法律ト云フ
モノガ雨後ノ筈ノ如ク續々ト出ルノデアリ
マス、貴衆兩院ノ贊同ヲ得テ出來ル法律ト
云フモノハ、一年ノ中ニドノ位アルカ分リ
マセヌ、從テ、ソレヲ扱フ人ト云フモノハ、
法律ヲ學ンダ人ナクテハナラナイ、行政
官ト云フモノハ、法律ヲ學ンデ高等文官試
験ヲ經タ人ナケレバナラヌ、斯ウ云フ教
育ヲ多年受ケテ居ツタ國民ノ間カラシテ、
天皇機關說ト云フヤウナ問題ノ出來テ來ル
コトト云フモノハ、是ハ當然ノコトデアル、
之ヲ我ニ國民精神ノ上カラ批判シテ、甚ダ
困ツタコトデアルト云フコトヲ論ズルノハ
當然ノコトデアリ、之ニ對シテ院ノ内外ヲ
間ハズ攻撃スル者ノ多イノハ誠ニ結構テア
リマスルガ、私カラ見マスト、ソレハ茲ニ一
ツノ病氣ガ現ハレテ、ソレニ對シテ對症療
法ヲ頻ニ講ジテ居ルノデアツ、私ハモウ一
歩廣く進ンデ、總チノ病源ガ何處ニ在ルカ
ト云フコトヲ内閣諸公ニ於テ御考へラ願ヒ
タイト思フノデアリマス、例ヘバ帝國憲法
ノ如キ貴重ナル法典ト雖モ、之ヲ解釋スラ
ニ必シモ「メートル」法ヲ用ヰナケレバナラ
ヌト云フコトハナ、尺貫法デ十分ニ解釋
ガ出來ルノデアル、然ラバ其萬病ノ根本療
法ハ何デアルカト云ヘバ、即チ明治以來缺
陷デアツク所ノ、日本人タル精神ヲ涵養スベ
キ所ノ學校ヲモウ少し増加シテ、日本人ヲ
作ルト云フコトガ一番大事ナコトデアル、
外ニ色ニアリマセウケレドモ、是ガ一番大事
ナコトデアル、即チ私カラ申セバ甚ダ我田

引水ノ嫌ハアリマスルケレドモ、國史ヲ申ノ修身道徳ト云フモノヲ教科ノ根本中心トシテ、日本人ヲ養成スルト云フコトヨリ外ニ、千言萬語ヲ費スト雖モ方法ハアリハシナイト恩フ、故ニ先づ多クノ學校ノ入學試験ニ是等ノ學科ニ重キヲ置イテ之ヲ課スルト云フコトガ、當然ノコトデアル、文官高等試験ニハ國史ヲ必須科目ニ入レルト云フコトガ必要ナルコトデアル、是ハ此前ニモ申シタコトデアリマスルガ、漸ク文官高試験ニ近頃選擇科目トシテ國史ヲ入レラレタコトデアル、ケレドモ選擇科目デアルガ爲ニ、年々其試験ヲ受ケルト云フ者ハ極メテ晨星寥々タルモノデアル、大多數ハ他ノ選擇科目ノ方へ參ルノダサウデアリマス、前内閣ノ時ニ、司法大臣ノ小山君ハ閣内ニ於テ高等文官試験ニ國史ヲ必須科目トシテ入レルト云フコトニ御盡力デアルト云フコトヲ聞イテ居リマシタガ、此内閣ニ於テ果シテ其御計畫ヲドナタカ御繼承ナサッテ御主張ナサッテ居リマスカ、ドウデアリマスカ、若シナケレバ必ズ、私ハ其事ハ慎重考慮ト云フヤウナコトヲ仰シヤラズニ、早く速ニ御實行ニナルコトヲ希望イタシタイノデアリマス、私ハ此天皇機關説ニ付テ斯ウ云フヤウニ感ジタノデアリマス、是ハ我ミハ日本人トシテ多少ノ教育ヲ受ケテ居ル場合ニハ、實ニ其天皇ノ神聖ニシテ侵スペカラズ、我國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治シ給フ、其天皇ハ至尊ノ御方デアリセラレテ、同時ニ國家ノ父デ居ラッシヤル、君デアルト同時ニ父デ居ラッシヤル、サウシテ君民一體トシテ此日本國ハ出來テ居ルノダト云フコトデ、極メテ常識デソレ以上ノ知識ハ要ラヌト思シテ居タノデアリマス、若夫ソレ以上ノコトヲ必要トスルナラバ、然ラバ人間ト云フモノハドウ云フモノデアルカ、我ミハ人間ハ萬物ノ靈長デアルト云フコトヲ自ラ任ジテ居レバ宜シイノデ、之ヲ解剖學上ニ細胞組織デドウナツテ居ルモノデアルトカ云フヤウナコトハ、ソレハ御醫者サンカ解剖學者ニ委セテ置ケバ宜シイコトデアル、水ヤ空氣ハ如何ニ人間ノ生活ニ必要ナモノデアルカト云フ

コトハ、人間トシテハ、ソレダケ知ッテ居レバ、素ト水素ト云フヤウナコト……空氣ノ成分ハ、間違ヒマシタ、酸素ト氮素ニアリマシタカ、サウ云フヤウナコトヲ而モ分量マデ研究シテ知ッテ居ルベキコトハ、是ハ理學者、化學者ノ知ッテ居ツテ、宜シイコトデ、我ニ世ノ中ヲ渡ル所ノ人間ト云フモノハ、サウ云フコトハ、唯サウ云フ說ガアルト云フコトヲ知ッテ居レバ、宜シイノデアル、人間トハ如何ナルモノゾヤト云フ定義ハ、是ハ學者ノ研究自身ニ委シテ置イテ宜シイコトデアル、天皇機關說ト云フヤウナコトハ、我ニカラ見ルト、極メテ常識的ニ考ヘテ見マスト云フト、サウ云フ問題ニ遇ギナイト云フヤウニ思ッテ居ルケレドモ、是ガ大キナ問題ニナッテ、世間ノ耳ニ響クト云フコトニナルト云フト、其儘ニハ置カレナイト云フ問題ニナッテ來ル、ソコデ又一ツ考ヘマスルノニ、數年來來國ニ於テハ、共產主義ニ唱ヘ、之ニ似テ居ルケレドモ、是ガ大キナ問題ニ基クト云フコトヲ聞イテ居ルノデアリマス、是ハ誠ニ鑑ミルベキコトデアリマステ、天皇機關說ト云フモノヲサウ云フ共產主義說ト一緒ニ見ルト云フコトハ、私ハ斷ジテ避ケタイ、サウ云フ說ヲ唱ヘル者ガ、御承知ノ通リ實ニ多キヲ數ヘルコトニナッタノデアリマスルガ、ソレガ段々調査セラレマ、スルト云フト、多數ハ國史ノ知識ノ缺乏ニ類似シタ所ノ不逞ノ說ヲ唱ヘル者ガ、御承認ノ事ニ基ク所ノ知識ガ足リナイカラシテサウ云フ說ヲ唱ヘルヤシニナッタト云フ、蓋シ至ツテハ、蓋シナノデアル、同ジデラウト思フ、成ルベク早ク、成ルベク速ニ斯ウ云フ面倒ナ問題ト云フモノハ教育界カラ、早ク一掃シテ戴キタノデアリマス、學問界カラハサウ容易ク一掃スルコトハ恐ラク出来マスマイ、人ノ心ノ中ト云フモノハ、如何ニ政府ノ力ト雖モ、之ヲ何トモスルコトハ出來マスママイケレドモ、之ヲ外ニアリマス、先刻井田男爵ノ御話ニ、白河樂翁現ハシテ累ヲ他人ニ及ボスト云フコトニナリマスルト云フト、政府タルモノハ相當ノ權力ヲ用ヒテ當然ノコトデアラウト思フノデ、アリマス、先刻井田男爵ノ御話ニ、白河樂翁公ガ寛政ノ異學ヲ禁ゼラレタト仰シヤッタ

コトハ、誠ニ適切ナ我々祖先ノ取ツ所ノ好
イ例デアル、樂翁公ノ考ニ、學問ハ何ノ爲自
國ニスルノデアルカ、學問ハ立志、修身、治
國、平天下、此大事ナコトノ方便トシテ學
ブ所ノモノデアル、然ルニ彼ノ頃ノ學者ト
云フモノハ、實ニ澤山異説ヲ唱ヘテ、争ツテ
結果人情ヲ害シ、風俗ヲ紊スト云フヤウ
ナコトニナツタ、故ニ樂翁公ハ、學問ヲ
スル所ノ主旨ニ反スルノデアル故ニ、サウ
云フ者ハ政治家トシテハ、取締ラナケレバ
ナラヌ、ケレドモ流石ニ樂翁公ハ大政治家
ダケアリマシテ、學問ノ多クノ説ノ中カラ
シテ、幕府ノ即チ聖堂ノ正シイ學問トシテ
取上ガタル所ノ學問ハ、朱子ノ學問デア
ル、其外ノ學問ハ勝手ニスルノハ決シテ幕
府カラハ干涉ハシナイガ、幕府デハ認メナ
イト云フ扱ヒヲサレタノデアル、故ニ聖堂
ニハ一人トシテ異學者ハ登用セラレナイ、
諸藩ノ學校ニハ間ニ折衷學トカ、朱子學以外
ノ古學トカ云フモノヲ用キテ居ルモノモア
リマシタ、又利巧ナ幕府ノ學者ノ中ニハ、
朝ニハ聖堂ニ出デテ朱子學ヲ講ズルケレド
モ、タニハ宅ニ歸テ王陽明ヲ其弟子ニ授ケ
ルト云フヤウナ人モアツタノデス、併ナカラ
幕府ハ朱子學ト云フモノハ正當ナ學問デア
ルト標準ヲ定メマンシタカラシテ、廣ク諸藩
ノ學校モ自ラ幕府ノ爲ス所ニ倣テ、是カラ
朱子學ト云フモノガ大イニ天下ニ重キヲ爲
スヤウニナツタノデアリマス、是等ノモノハ
今日ノ建議案ヲ政府ニ於テ實行ナサルニ付
テハ、多少ノ御参考ニナルノデハナカラウ
カト思フノデアリマス、ソレカラモウ一ツ
附加ヘテ、政府ノ之ヲ御實行ナサルニ付テ、
私ハモウ今日ノ建議案ノ趣意ト云フモノ
ハ、説明ヲ要シナイ程自明ノ理ヲ含ンデ居
ル、明カナルモノデアリマスルカラ、唯老
婆心デアリマシタガ、更ニ一ツ申シマスルト、
デアリマシタガ、更ニ一ツ申シマスルト、
此コハ餘程恵巧ニ爲サラヌトイカヌノデア
ラウト思ヒマス、議院外ノ説ニ依リマスト
ヲ申シタイト思フ、今申シタコトモ其一ツ
云フト、天皇機關説ヲ唱ヘル人ヲバ、或ハ
議員ノ地位ヲ奪ヘトカ、高等文官試験ノ地

位ヲ奪ヘト云フヤウナコトヲ言ツテ居ル、或
ハ自決セヨト云フヤウナコトモ言ツテ居ル、或
高等文官試験ノ地位ヲ、其說ヲ唱ヘル人ニ
ヤル、ヤラヌト云フコトハ、恐ラクハ内閣
トシテハ格別ムツカシイ問題デハナカラウ
ト思フ、併ナガラ虎ヲ野ニ放ツト云フ謬ガ
アル、檻ヘ入レテ置キマスレバ、相當ニ制
禦ガ出来ルノデスケレドモ、下手ニ野ニ放
ツト、ドウ云フ害ヲスルカ分ラヌノアリマ
ス、先年來文部省ニ於テ、官立大學ノ教
授及ビ直轄學校ノ教授ノ赤イ先生ヲ御處
分ナサツタコトガアル、直接ニ御處分ナス
タリ、或ハ說諭シテ罷メサセラレタ人モア
ル、併ナガラ我ミハサウ云フ人ノ說ヲ、學
校ノ講壇ニ於テ演説ヲシテ居ルト云フコト
ヲ聞キマシタ時ニ、何ノ某ハ赤イサウデア
ル、誰某ハ大分桃色ダサウデアルト云フコ
トヲ聞クニ止マツタノデアリマスケレドモ、
文部省ガ之ヲ野ニ放タレタガ爲ニ、ソレ等
ノ人ハ自由ヲ得マシテ、雑誌ニ講壇ニ其說
ヲ吐キマシタカラシテ、私共モ御蔭デサウ
云フ說ヲ拜聽スルコトガ出來タヤウナコト
モアル、是等ノコトハ、政治ヲスル人ガ餘
程旨ク御考ヘニナリマセヌト、取締ラムト
欲シテ却テ其結果ハ反對ニナルト云フコト
ニモナリ得ルノデアリマス、私ハ學問ノ自
由ト云フコトハ大いニ尊重シテ貰ヒタイノ
デアリマス、又學說ノ自由ト云フコトモ、
我ニ立場カラ切望スル次第デアリマス、
併ナガラ如何ニ學問ニ國境ナシト云ツテモ、
ソレハ主トシテ「サイエンス」ニ關スルコト
デアル、理化學ニ關スル學問ノ方ニハ如何
ニモ國境ハナインデアル、併シ人文科學ノ
或ルモノニ至ツテハ、國家アツチ初メテ其國
ノ人文科學デアリ得ル場合ガアルノデア
ル、況ヤ天下ニ我國ノ如ク特別ナル國體ヲ
持テ居ル所ノ國ニ於テハ、其特別ナル國體
ノ妨ガヲ爲スヤウナ人文科學ト云フモノハ
ハ、相當ノ程度ニ於テ取締ラルベキノガ
必要デアラウト私ハ信ズル者デアル、私ハ
一個ノ學者ノ端ニ居ル者デアリマス、
學問ノ自由ト云フモノハ何處マデモ絶
叫イタシタイ、ケレドモ我國ニ於テハ其
ノ自由ト云フモノハ、或ル點ニ於テ束縛
セラルベキモノデアルト云フコトヲ私ハ

自信イタシテ居ル、斯ク論ジ來リマスルト、明治天皇ガ明治十九年ニ大學へ行幸セラレテ、諸種ノ學科ヲ御覽ニナリマシテ、歸ツテ岩倉右大臣ト元田侍講ニ御感想ヲ御漏ラシナサレタコトガアリマス、今日大學へ行ツテ、法律、政治、醫學、理學色ニノ學科ハ非常ニ進歩ラシテ居ルノヲ見テ、大イニ喜ンダ、ケレドモ東洋道徳ノ學科ヲ教ヘル所ヲ見セテ吳レナカツタ、古典講習科ト云フモノヲ置カレタサウデアルガ、ソレハ今日見セテ吳レナカツタ、法學、醫學、政治學、是等ノ諸學ノ進歩ト云フコトハ大イニ喜フベキコトデアルケレドモ、是等ノ學問ニ達シタ云フダケデ、國家ノ政治ハ爲シ得ベキモノデハナイ、東洋古來ノ道徳ヲ學ンダ人デナケレバ、今日内閣ヲ組織シタ人ハ王政復古ニ功ガ有ツタ人ガ爲シテ居ルノデアツテ、是等ノ人ハ何時迄モ永續スルモノデナイ、之ニ代ルベキ人ハ必ズサウ云フ必要ナ道徳ニ關スル學問ヲシタ人デナケレバナラヌト仰セラレテ居リマスコトガ、ヒシヽト私ハ身ニ感ゼラレノデアリマス、其東洋道徳、我國古來ノ道徳ハ何デアルカト云ヘバ、今申シタ如ク修身學、修身學ト云フモノハ國史、國語、漢文ヲ基トシタ所ノ修身學デアルト解釋ラ致スヨリ外、致シ方ガナイト思フノデアリマス、斯ウ云フ見地ニ於キマシテ、私ハ今日ノ政治界教育界ト云フモノニハ、反省シ改良スペキ所ガ多々アルト思フノデアリマスルカラシテ、今日ノ建議案ノ出タニ付テ、此方面カラ衷心ノ贊成ヲ致ス者デアリマス（拍手）

民ナル國家意識ノ下ニ、民族的ノ矜持ト國歴史的ノ確信トニ依リ、日本人本來自然ノ心ト云フモノヲ摑マヘテ參ッタノデアリマス、此結果ト致シマシテ、曾テハ世間ノ思想トシテ一家ノ風ヲ成シテ居ツタモノニモ「本然ノ心ノ叫ビカラ強イ批判ノ言葉ヲ以テ迎ヘラルニ至ツタノデアリマシテ、思潮ヲ通觀イタシマスレバ、一方ニ國家各、斯ノ如キコトハ國民ノ思想ノ覺醒期ニ當リマシテハ、世界何レノ國ニ於テモ起ル現象デアルト私ハ考ヘル者デアリマス、然、現代ノガ持ツテ居リマス特性ニ基ク特異性ノ存在ニ目ヲ蔽ヒマシテ、肇國悠久ノ昔カラ前後ナク存在スル所ノ我が日本ノ魂、皇國精神ノ發露タル國ノ基ノ法ノ嚴存スルト云フコトヲ無視シ、神祇、天皇一體ヲ成シ、天皇、臣民一心ヲ以テ結ブ、萬邦無比ナル我國體ヲ十分知悉シナ思想モアルノデアリマス、又他方此日本精神ノ有スル同化ノ力、創造ノ力、古語ヲ以チマシテ產靈ノ力ト呼バレル雄渾闊達ナル力ヲ認メマシテ、世界ノ思潮ノ進取向上ニ貢獻スペキ我國獨自ノ文化の大使命、之ヲ自覺シナイデ、徒ニ偏狹固陋ノ說ヲ執ツテ、我ガ國體ノ眞義ヲ解シ得タリトナス思想家モアルノデアリマス、自今世ニ行ハル所ノ詭矯、矯激ノ思想ト退嬰墨守ノ氣風ト云フモノハ、二者孰レモ肇國ノ大理想ニ民心ガ効シテ居ナイカラ起ル現象デアリマシテ、之ヲ過去、我國數千年來ノ國史ニ徵シテ見マスノニ、國力ノ消長ハ、此國家的自覺ノ心ノ消長ト正比例シテ居ルノデアリマシテ、時局ノ艱難頗ル重大ナル今日ニ於キマシテ、特ニ深イ憂ヲ持ツ者デアリマス、而シテ斯ノ如ク思想ノ根柢ノ深クナイ結果ト致シマシテ、將又民族的ノ理想、信仰ノ探究不十分ナル結果ト致シマシテハ、現代ノ青年ガ實ニ俊敏聰明ノ偉才ヲ持ツテ、日本國民タルノ誇ラ打捨デマシテ、或ハ外來思想ノ走狗トナリ、或ハ今日帝國ノ重大ナル發展途上ニアルコトヲ忘レマシテ、自墮落、敗類ノ生活ニ、自ラノ貴重ナル生命ヲ欺瞞シテ居ルト云フヤウナ情況ガ治々ト見ラレルノデアリマス、思想的ニ迷ヘル者、道義的ニ敗類セル者、是亦我日本精神ノ深イ信仰ヲ持タナイ所カラ來タルモ

ノデアルト考ヘラレルノデアリマス、誠ニ國家ノ損失、國民ノ不幸、是ヨリ大ナルモノハナノデアリマス、例ヲ外國ニ取ルノモ如何カト存ジマスケレドモ、歐洲ニ於ケル新興ノ國家、又ハ更生ヲ畫シテ居ル諸邦ニ於キマシテハ、或ハ共產主義ニ蝕マレテ、國民思想ノ動搖ヲ來シタノヲ看取シタ政治家ハ、茲ニ所謂新シキ國家思想ヲ張揚セム爲ニ、實ニ果斷ナル且又明快ナル政策ヲ國民ノ前ニ提示シテ居ルノデアリマス、或ハ又永ラク異民族ノ爲ニ、其固有ノ國民思想ガ歪曲サレマシタ國家ニ於キマシテモ、同ジク政府ハ全力ヲ盡シテ民族ノ理想、信仰ヲ張揚イタシテ居ルノデアリマス、是ハ「ヨーロッパ」ノ古イ國ニ於テ例ヲ見ルト同時ニ、世界大戰後ニ興リマシタ所ノ新國家ニモ見ラレルノデアリマス、又近クハ東洋ニ於ケル國ミニ於テモ、暫ク目ヲツブテ考ヘレバ、皆其努力ヲ致シテ居ル有様デアリマス、我ガ帝國ハ國體ノ優秀デアルガ故ニ、餘リニ明白ナル此國體ニ賴り過ギテ、其深イ精神的ノ根據ヲ十分ニ國民ニ示サナカツタト云フ所ニ、思想動搖ガアルト云フコトハ、我ニ否ムコトガ出來ヌト思フノデアリマス、而シテ此國民的理想ノ確立、國民的新生命ノ發揚ト云フコトニ付キマシテハ、雷ニ政府ガ其眞面目ナル全力ヲ傾倒シテ居ルバカリデナク、達識ナル學者、思想家ハ手ヲ携ヘテ烈々タル忠愛ノ信念ヲ以テ國民ニ呼ビカケテ居ルコトハ、實ニ外國ナガラ又或程度ノ欽羨、羨シサニ堪ヘヌ所モアルノデアリマス、今日政府ハ能ク時代ノ潮流ノ奈邊ニ流レツツアルカト云フコトヲ達觀シ、現代ノ日本ハ、ソモ何ヲ要求シテ居ルカ、現代ノ國民ハ何ヲ考ヘテ居ルカ、外國ノ環境ノ眼ハ、今日ノ日本ノ態度ニ對シテ如何ナル批判ヲ加ヘテ居ルカ、斯ノキ諸點ヲ考ヘリマスレバ、建議案ノ意味ハ頗ル深長デアリマシテ、時弊ノ革新、庶政ノ更張、時艱ノ匡救、國運ノ進展、誠ニ舍ム所重要ナモノバカリデアリマシテ、此意義ニ於キマシテ、政府ヘドウシ虚心坦懐ニ

○議長（公爵近衛文麿君）　全會一致ト認メ
マフ
（總員起立）
ス
○議長（公爵近衛文麿君）　報告ヲ致サセマ
ス
（瀬古書記官朗讀）
本日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
日本銀行納付金法中改正法律案可決報告
書
臨時利得稅法案修正報告書
○議長（公爵近衛文麿君）　本日ノ日程ハ是
ニテ終了イタシマシタ、次會ノ日程ハ決定
次第、彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、是ニ
テ散會イタシマス
午後四時一分散會

○議長(公爵近衛文麿君) 是ニテ討論ハ終リマシタ、總理大臣ヨリ發言ノ要求ガゴザイマス、内閣總理大臣(國務大臣岡田啓介君演壇ニ登ル)此際一言政府ノ所信ヲ明白ニ致シテ置キタイト存ジマス、本建議案ハ誠ニ御尤ナコトト考へマスルノデ、政府ハ十分ニ之ヲ尊重シマシテ、其趣旨ニ副フヤウカラ致ス積リデアリマス○議長(公爵近衛文麿君)是ヨリ採決ヲ致シマス、本建議案ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

本案ノ精神ヲ考へラレ、聰明ト果斷、之ニ
加フルニ確乎不拔ノ國家的、國體的信仰ノ
上ニ、此建議案ノ精神ヲ十分徹底シテ、再
ビ今日ノ如キ諸説ノ紛糾ナカラムコトニ努
力セラレムコトヲ、衷心カラ祈ツテ已マナ
イ次第デアリマス、此意味ヲ以チマシテ、
私ハ本建議案ニ賛成ノ意ヲ表スル者デアリ